2026年3月13日現在

# 留学生の現状調査
# 2026年　結果報告

## 有効回答者数：1285人

調査期間：2025年12月19日～2026年1月20日



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 目次


| | | |
|---|---|---|
| **SECTION** | **1** | **調査概要** |
| | 1. | 調査概要 |
| | 2. | 主要指標（Key Figures） |
| | 3. | はじめに |
| | 4. | 質問事項 |
| **SECTION** | **2** | **基本属性** |
| | 1. | 出身地域 |
| | 2. | 通っている教育機関の種類 |
| | 3. | 性別、年齢 |
| | 4. | 留学し始めた年 |
| | 5. | 日本語能力 |
| **SECTION** | **3** | **留学生活** |
| | 1. | 勉強している分野 |
| | 2. | 困っていること |
| | 3. | 推奨度 |
| | 4. | 満足度 |
| | 5. | 留学生支援コンソーシアム大阪の取り組み |
| **SECTION** | **4** | **進路･就職** |
| | 1. | 分析概要 |
| | 2. | 日本で働きたい気持ち |
| | 3. | 日本で働きたい地域とその理由 |
| | 4. | 働きたい環境 |
| | 5. | 就職活動に関する課題 |




©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 調査概要

## SECTION 1



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 調査概要

| | |
|---|---|
| **調査期間：** | 2025年12月19日～2026年1月20日 |
| **調査方法：** | オンラインアンケート調査 |
| **有効回答数：** | 1285人 |
| **対象者：** | 大学院・大学・専門学校・日本語学校に在籍する外国人留学生 |
| **実施主体：** | 公益財団法人　大阪観光局 |
| **調査目的：** | 大阪で学ぶ外国人留学生の生活状況や進路意向を把握し、今後の留学生支援施策および就職支援施策の検討に活用することを目的とする。 |
| **主な調査項目：** | 【基本属性】<br>・国籍／性別／年齢／留学期間／学校種別／日本語能力<br><br>【留学生活】<br>・困っていること<br>・満足度／推奨度（NPS）<br>・OGSAN認知度<br>・StudyinOsaka.com利用状況<br><br>【進路・就職】<br>・日本で働きたい度合<br>・働きたい理由<br>・働くことへの不安<br>・希望する企業スタイル<br>・希望する産業／地域<br>・求める就職支援 |


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 主要指標（Key Figures）

| | |
|---|---|
| +30 | **大阪のNPS（ネットプロモータースコア）：** 前年とほぼ同水準（2025年：＋31） |
| 85.8% | **満足率：**全体の満足率は前年より上昇（2025年：81.6%） |
| 64.2% | **強い日本就労意向層：**日本で働きたい気持ち（0～10）で9･10を選択 |
| 57.7% | **日本企業志向：**卒業後、日本企業での就職を希望 |
| 47.9% | **日本語面接への不安：**就職活動で日本語面接に不安を感じる |
| 40.6% | **就職指導の高評価層：**就職指導を「非常に満足」（9･10）と評価 |

# はじめに

コロナ禍のため一時大阪在住の留学生数も2万人程度に減りましたが、2025年6月段階で4万7千人が大阪に住み、学習しています（入国管理局データ）。

2020年4月に立ち上げた我々「留学支援コンソーシアム大阪」もまもなく6年が経ちます。アジアNO.1の留学生都市を目指し、オール大阪で留学生の支援を行うこととし、5回目の「外国人留学生エキスポ」を実施しました。また、多くのイベントを「留学生ウィーク」としてブランディングし、その認知度を高めています。それらのイベントでは参加した総勢千人の留学生から高い満足度を得ています。また、留学生アンバサダー組織OGSANは65か国以上2200人近くが登録し、彼らから生の声を聞くこともできています。

6回目となる今回のアンケートは「就労」に焦点を当てた内容です。継続的に測定している満足度は年々上昇しています。また、一昨年よりNPS（ネット・プロモーター・スコア）分析もしています。我々「留学支援コンソーシアム大阪」は、留学生にとって住んでよし・学んでよし・働いてよしの大阪を目指していますが、多くの留学生が希望している大阪での就職率については高いとは言い難い状況です。そこで留学生の就職に関する意識を調査し、国や学校別でその違いはあるかなどを調べるのが今回のアンケートの目的の一つです。これらの調査結果を各学校でフィードバックし、留学生の就職の問題解決の一助となることを切に願っています。

今回のアンケートの実施に際しては、大学コンソーシアム大阪、大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）、そして各学校から大きなご協力いただきました。この場をお借りして深謝いたします。


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 質問事項




日本語以外にも５言語での質問と回答可能



| | | |
|---|---|---|
| Q1 | 性別 | SA |
| Q2 | 年齢 | NU |
| Q3 | 出身地域 | SA |
| Q4 | 現在通っている教育機関の種類（校種） | SA |
| Q5 | 学校の名前 | FA |
| Q6 | メールアドレス | FA |
| Q7 | 名前 | FA |
| Q8 | 日本に留学し始めた年 | SA |
| Q9 | あなたの日本語能力が下記のどのレベルに一番近いですか。 | SA |
| Q10 | OGSAN（大阪の留学生のアンバサダーネットワーク）に参加していますか。 | SA |
| Q11 | 大阪での留学に関しては全体的にどのぐらい満足していますか。 | SA |
| Q12 | 大阪を留学先として、母国にいる友人や知り合いや後輩の人達にお勧めする気持ちはどれほど強いですか。 | SA |
| Q13 | 今困っていることは何ですか。 | MA |
| Q14 | 今の学校を卒業後、日本に残る気持ちはありますか。 | SA |
| Q15 | あなたは日本で働きたいと思う気持ちはどれほど高いですか。 | SA |
| Q16 | 日本で働きたいなら、その理由を教えてください。 | MA |
| Q17 | 日本で働きたくない／心配している理由を教えてください。 | MA |
| Q18 | 一番働きたい地域はどこですか。 | SA |
| Q19 | 働きたい企業の種類・仕事のスタイルを教えてください。 | MA |
| Q20 | お仕事として興味のある産業は何ですか。 | MA |
| Q21 | 現在通っている教育機関で勉強している分野は何ですか。 | SA |
| Q22 | 就職活動で不安に感じる点は何ですか。 | MA |
| Q23 | あなたが通っている学校での就職指導にどの程度満足していますか。 | SA |
| Q24 | どのようなサポートがあれば就職しやすくなると思いますか。 | MA |
| Q25 | 我々のポータルサイトStudyinOsakaには「就職」情報を掲載しています。あなたはそれを利用していますか。 | SA |


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本属性

## SECTION 2



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜出身地域

Q. 出身地域を教えてください

本年度は、国別で結果を示す目的から、地域的な近接性と各国におけるサンプルサイズの確保の両方を考慮し、回答者をいくつかの国・地域グループに分けて集計している。

| 国籍 | N数 | 割合 |
|---|---|---|
| ネパール | 367 | 28.5% |
| 中国 | 242 | 18.8% |
| ミャンマー | 163 | 12.7% |
| ベトナム | 160 | 12.4% |
| アジア外その他<br>（欧米、アフリカなど） | 97 | 7.5% |
| アジア内その他<br>（モンゴル、フィリピンなど） | 77 | 6.0% |
| 南アジア<br>（インド、パキスタン、スリランカなど） | 72 | 5.6% |
| 台湾・香港 | 67 | 5.2% |
| インドネシア | 41 | 3.2% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜通っている教育機関の種類

Q. 現在日本で通っている教育機関の種類

今年度の調査では、専門学校、日本語学校、大学、大学院のいずれについても、各200人以上の回答を得ることができており、校種別の分析が一定程度可能となっている。その中でも、専門学校生の割合が特に高く、全体の43.7%を占めている。なお、本報告書の結果は、実際の留学生数やその分布に基づくウェイト調整を行っていない。そのため、専門学校生の構成比が高いことにより、全体結果に対して多少の影響を与えている可能性がある点には留意が必要である。

| 国籍 | N数 | 割合 |
|---|---|---|
| 専門学校 | 561 | 43.7% |
| 日本語学校 | 313 | 24.4% |
| 大学 | 208 | 16.2% |
| 大学院 | 203 | 15.8% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜通っている教育機関の種類（国籍別）

Q. 現在日本で通っている教育機関の種類

以下の結果から、教育機関の種類別に見た国籍構成比には大きな差があることが確認される。例えば、ネパール出身の回答者の85.8%は専門学校に在籍している一方、中国出身の回答者では、大学に在籍している割合が41.3%となっている。このように国籍と教育機関の構成が大きく異なるため、より詳細な分析を行う際には、結果に影響を与えている要因が国籍の特性によるものなのか、それとも教育機関の特性によるものなのかを慎重に見極めることが重要である。

| 教育機関 | アジア外その他 | アジア内その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 台湾・香港 | 中国 | 南アジア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 専門学校 | 12.5% | 16.9% | 14.6% | 85.8% | 35.0% | 59.5% | 23.9% | 12.0% | 23.6% |
| 日本語学校 | 33.3% | 19.5% | 53.7% | 11.4% | 41.9% | 28.2% | 28.4% | 15.7% | 44.4% |
| 大学 | 15.6% | 26.0% | 7.3% | 1.9% | 16.3% | 12.3% | 14.9% | 41.3% | 9.7% |
| 大学院 | 38.5% | 37.7% | 24.4% | 0.8% | 6.9% | 0.0% | 32.8% | 31.0% | 22.2% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 学校別の回答者数

**大学・大学院**

| | |
|---|---|
| 大阪公立大学 | 127 |
| 奈良先端科学技術大学院大学 | 85 |
| 立命館大学 | 56 |
| 大阪大学 | 36 |
| 大阪女学院大学 | 36 |
| 関西大学 | 16 |
| 大阪観光大学 | 7 |
| 大阪産業大学 | 5 |
| 神戸大学 | 5 |
| 桃山学院大学 | 4 |
| 京都大学 | 3 |
| 近畿大学 | 3 |
| 大阪経済大学 | 3 |
| 大阪教育大学 | 2 |
| 大阪工業大学 | 2 |
| 神戸医療未来大学 | 2 |
| 阪南大学 | 2 |
| 摂南大学 | 2 |
| 大阪商業大学 | 1 |
| 大阪国際大学 | 1 |
| 大阪成蹊大学 | 1 |
| 追手門学院大学 | 1 |
| 大手前大学 | 1 |
| 関西外国語大学 | 1 |
| 滋賀大学 | 1 |
| 兵庫大学 | 1 |
| 同志社大学 | 1 |
| 不明、その他 | 6 |

合計　411

**専門学校**

| | |
|---|---|
| 大阪観光ビジネス学院 | 314 |
| 大阪YMCA国際専門学校 | 63 |
| 修成建設専門学校 | 62 |
| ECCコンピュータ専門学校 | 36 |
| 駿台観光＆外語ビジネスカレッジ大阪 | 21 |
| エール学園 | 10 |
| 大阪外国語・ホテル・エアライン専門学校 | 10 |
| 大阪ITプログラミング&会計専門学校 | 8 |
| 大阪総合デザイン専門学校 | 6 |
| 大阪バイオメディカル専門学校 | 5 |
| OCA 大阪デザイン&テクノロジー専門学校 | 4 |
| 大阪調理製菓専門学校 | 4 |
| 関西外語専門学校 | 2 |
| 大阪コンピュータ専門学校 | 1 |
| 大阪動物植物海洋専門学校 | 1 |
| トヨタ神戸自動車大学校 | 1 |
| 広島国際ビジネス専門学校 | 1 |
| 鴻池生活科学専門学校 | 1 |
| 大阪ハイテテクノロジー専門学校 | 1 |
| 大阪工業技術専門学校 | 1 |
| 大阪航空専門学校 | 1 |
| 大阪歯科学院専門学校 | 1 |
| 日産愛媛自動車大学校 | 1 |
| 不明 | 6 |

合計　561

**日本語学校（日本語課程）**

| | |
|---|---|
| ファーストスタディ日本語学校 | 76 |
| ISI ランゲージスクール大阪校 | 57 |
| ホツマインターナショナルスクール大阪 | 49 |
| 大阪日本語教育センターJASSO | 39 |
| 平成医療学園専門学校 日本語学科 | 37 |
| 大阪バイオメディカル専門学校　日本語学科 | 18 |
| 大阪文化国際学校 | 16 |
| ヒューマンアカデミー日本語学校　大阪校 | 8 |
| 万和国際教育学院 | 5 |
| J国際学院 | 1 |
| コミュニカ学院 | 1 |
| 清風情報工科学院 日本語学科 | 1 |
| ダイワアカデミー | 1 |
| 宝塚医療大学 日本語別科 | 1 |
| 関西大学別科 | 1 |
| 大阪YMCA 日本語学科 | 1 |
| 不明 | 1 |

合計　313



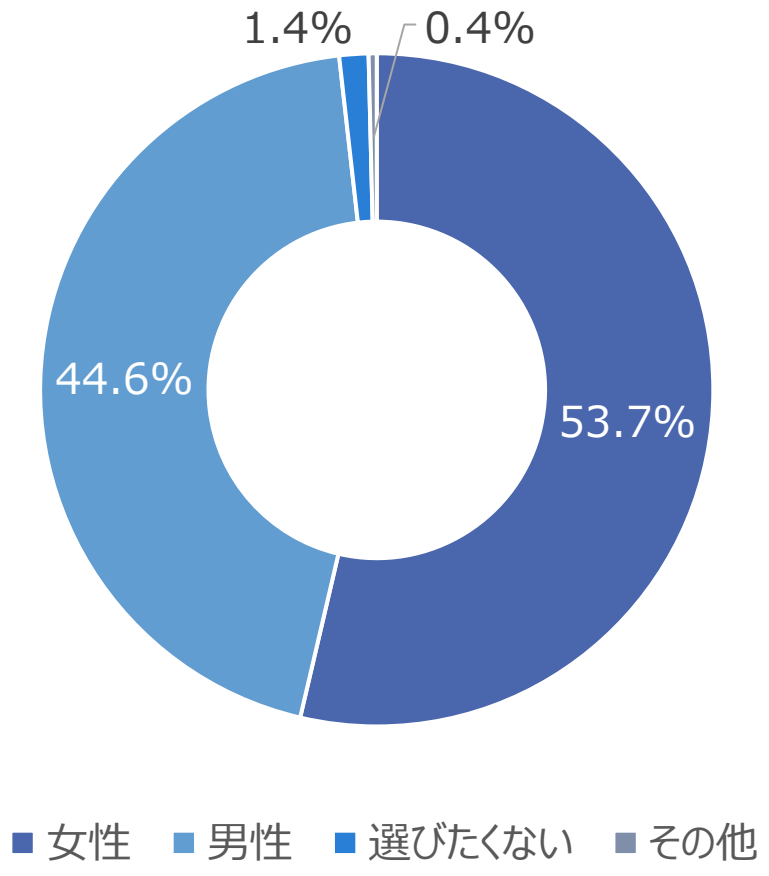
©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜性別、年齢

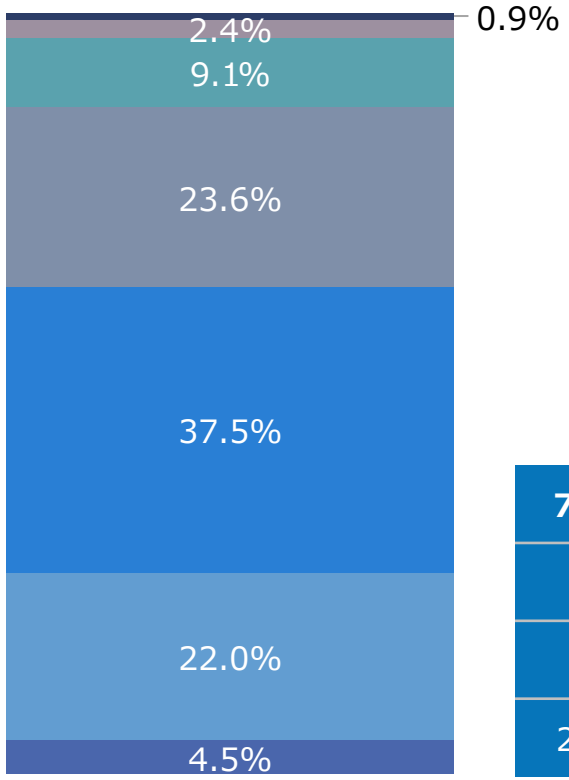
Q. 性別を教えてください ／Q. 年齢を教えてください

## 回答者の年齢および性別の内訳は以下の通りである。

### ■ 性別




### ■ 年齢




| | |
|---|---|
| 75% パーセンタイル | 27歳 |
| 平均 | 25.08歳 |
| 中央値 | 24歳 |
| 25% パーセンタイル | 22歳 |



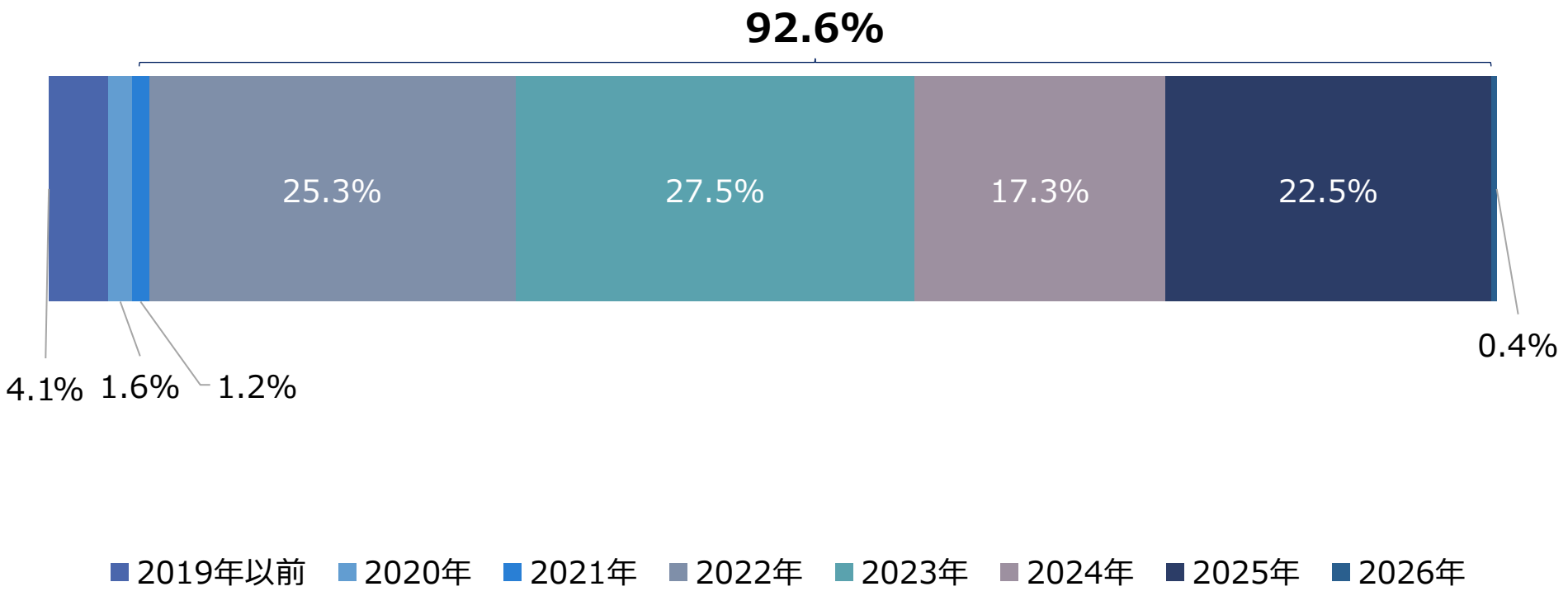
©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜留学し始めた年

Q. 日本に留学し始めた年を教えてください

回答者の 92.6% は、2022年から2025年の間に大阪での留学を開始している。大阪での滞在期間によって、生活経験や評価・意識には差が生じる可能性があるが、本調査では滞在期間が1年未満から3年程度の層が大半を占めている。

■ 日本で留学し始めた年





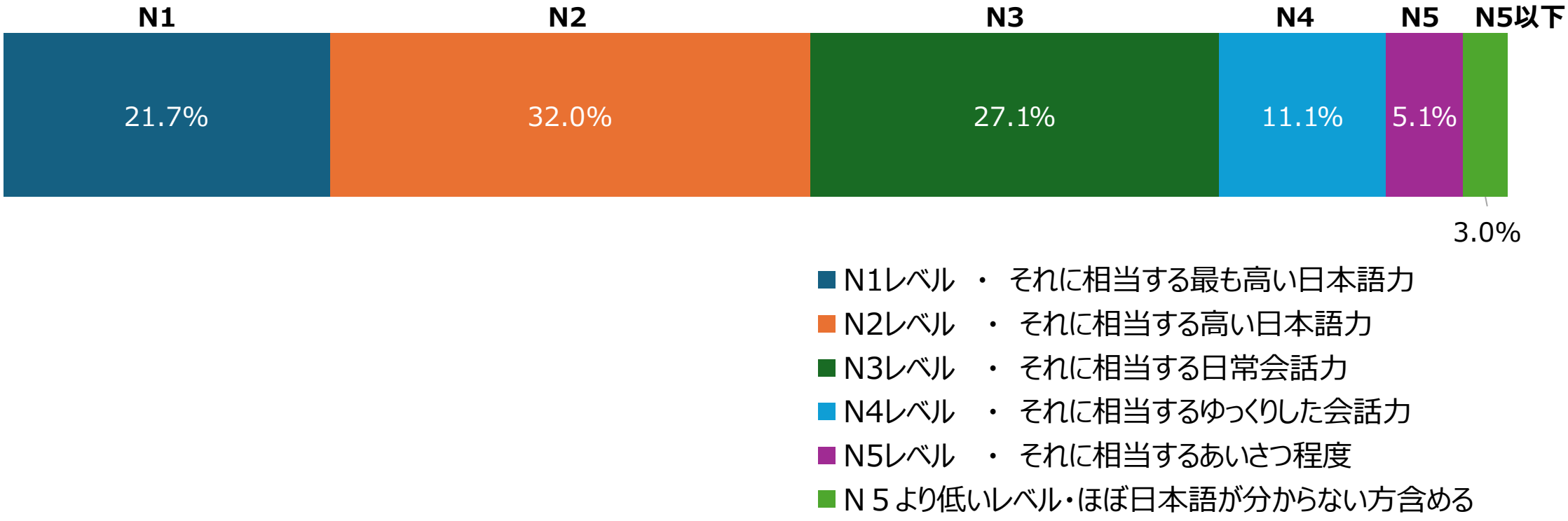

©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜日本語能力

Q. あなたの日本語能力は下のどのレベルに一番近いですか

回答者の 50%以上 は、日本語能力試験N1またはN2、もしくは同等レベルの日本語力を有している。日本語能力の水準は国籍によって差が見られるほか、在籍している教育機関の種類や日本での滞在期間によっても変化する可能性がある。

## ■ 日本語能力






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜日本語能力（国籍別）

Q. あなたの日本語能力は下のどのレベルに一番近いですか

国籍別に日本語能力レベルを見ると、国ごとに明確な違いが確認できる。例えば、ミャンマーでは N2レベルが突出して高く、中国では N1レベルが多い。一方、ネパールでは N3レベルが大半を占めている。ただし、こうした違いは国籍そのものよりも、在籍している教育機関の種類や専攻分野と強く関連している可能性が高い。

| 日本語能力 | アジア外その他 | アジア内その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 台湾・香港 | 中国 | 南アジア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| N1レベル ・ それに相当する最も高い日本語力 | 7.2% | 28.6% | 22.0% | 2.2% | 9.4% | 25.8% | 23.9% | 63.2% | 9.7% |
| N2レベル ・ それに相当する高い日本語力 | 17.5% | 20.8% | 41.5% | 39.0% | 25.0% | 57.1% | 25.4% | 23.1% | 16.7% |
| N3レベル ・ それに相当する日常会話力 | 24.7% | 15.6% | 19.5% | 52.0% | 34.4% | 13.5% | 11.9% | 6.2% | 19.4% |
| N4レベル ・ それに相当するゆっくりした会話力 | 25.8% | 11.7% | 9.8% | 6.3% | 23.8% | 1.8% | 11.9% | 5.8% | 26.4% |
| N５より低いレベル・ほぼ日本語が分からない方含める | 7.2% | 7.8% | 7.3% | 0.3% | 1.9% | 0.0% | 13.4% | 0.0% | 12.5% |
| N5レベル ・ それに相当するあいさつ程度 | 17.5% | 15.6% | 0.0% | 0.3% | 5.6% | 1.8% | 13.4% | 1.7% | 15.3% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜日本語能力（校種別）

Q. あなたの日本語能力は下のどのレベルに一番近いですか

日本語能力と学校の種類には強い相関が見られる。一般的に、大学ではより高い日本語能力が求められる。一方、日本語学校では、比較的日本語能力が低い段階にある学習者の割合が高い傾向にある。

| 日本語能力 | 日本語学校 | 専門学校 | 大学 | 大学院 |
|---|---|---|---|---|
| N1レベル　・　それに相当する最も高い日本語力 | 7.0% | 11.6% | 55.3% | 37.9% |
| N2レベル　・　それに相当する高い日本語力 | 27.5% | 44.4% | 25.0% | 11.8% |
| N3レベル　・　それに相当する日常会話力 | 29.1% | 40.6% | 8.2% | 6.4% |
| N4レベル　・　それに相当するゆっくりした会話力 | 29.1% | 3.0% | 5.8% | 11.3% |
| N５より低いレベル・ほぼ日本語が分からない方含める | 0.0% | 0.0% | 1.9% | 16.7% |
| N5レベル　・　それに相当するあいさつ程度 | 7.3% | 0.4% | 3.8% | 15.8% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 留学生活

## SECTION 3

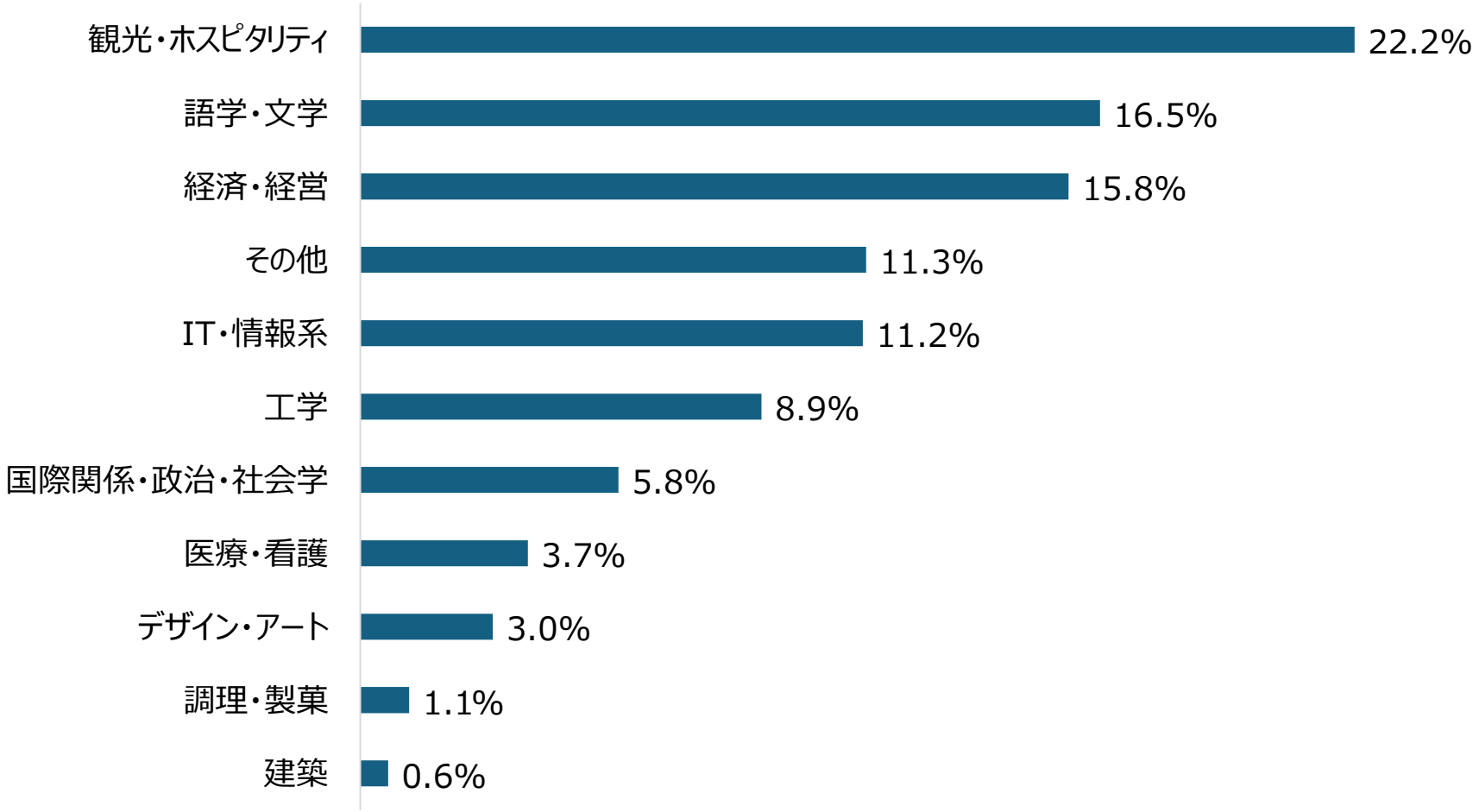


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜勉強している分野

Q. 現在通っている教育機関で勉強している分野は何ですか

学生が学んでいる分野は多岐にわたっている。これらは在籍している学校の種類によって大きく異なると考えられるが、最も多い分野は「観光・ホスピタリティ」である。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜勉強している分野 - 国籍別の結果

Q. 現在通っている教育機関で勉強している分野は何ですか

国籍別に見ると、専攻分野には違いが確認される。例えば、中国出身者では経済・経営学科関連を専攻している割合が高い。一方、ネパール出身者では観光・ホスピタリティ分野を専攻している割合が非常に高い。

| 学習分野 | アジア外その他 | アジア内その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 台湾・香港 | 中国 | 南アジア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経済・経営 | 4.1% | 13.0% | 7.3% | 19.6% | 18.8% | 16.0% | 4.5% | 21.1% | 5.6% |
| 語学・文学 | 18.6% | 13.0% | 22.0% | 10.1% | 21.3% | 16.0% | 16.4% | 20.7% | 23.6% |
| IT・情報系 | 22.7% | 11.7% | 12.2% | 3.0% | 6.3% | 17.8% | 16.4% | 11.6% | 26.4% |
| 医療・看護 | 4.1% | 1.3% | 2.4% | 0.5% | 7.5% | 0.0% | 4.5% | 9.5% | 2.8% |
| 国際関係・政治・社会学 | 9.3% | 7.8% | 4.9% | 2.2% | 8.1% | 6.1% | 3.0% | 8.7% | 4.2% |
| 工学 | 10.3% | 11.7% | 17.1% | 0.8% | 6.9% | 20.2% | 16.4% | 8.7% | 13.9% |
| 観光・ホスピタリティ | 3.1% | 10.4% | 2.4% | 59.4% | 13.8% | 11.0% | 3.0% | 2.5% | 9.7% |
| デザイン・アート | 9.3% | 2.6% | 7.3% | 0.8% | 1.3% | 3.1% | 9.0% | 2.5% | 2.8% |
| 建築 | 1.0% | 1.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.8% | 0.0% | 1.2% | 0.0% |
| 調理・製菓 | 2.1% | 3.9% | 2.4% | 0.3% | 1.9% | 1.2% | 1.5% | 0.4% | 0.0% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 基本情報｜勉強している分野 - 校種別の結果

Q. 現在通っている教育機関で勉強している分野は何ですか

在籍している教育機関の種類や専攻分野には、いくつか顕著な違いが見られる。例えば、観光系専門学校の回答者が多いことから専門学校においては観光・ホスピタリティ分野を専攻している割合が圧倒的に高い。なお、大学では国際関係や政治などの分野を専攻している割合が比較的高い傾向にある。

| 学習分野 | 専門学校 | 大学 | 大学院 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| 語学・文学 | 6.1% | 22.1% | 3.0% | 39.9% |
| 経済・経営 | 19.6% | 19.7% | 12.3% | 8.6% |
| 観光・ホスピタリティ | 45.5% | 4.8% | 0.5% | 6.1% |
| IT・情報系 | 8.6% | 8.7% | 22.7% | 10.2% |
| 工学 | 8.2% | 5.8% | 18.2% | 6.4% |
| 国際関係・政治・社会学 | 1.4% | 21.2% | 6.4% | 2.9% |
| 医療・看護 | 0.7% | 6.7% | 9.9% | 3.2% |
| デザイン・アート | 3.6% | 2.4% | 0.5% | 3.8% |
| 調理・製菓 | 0.9% | 0.0% | 0.5% | 2.6% |
| 心理学 | 0.0% | 1.0% | 2.0% | 0.0% |
| その他 | 5.5% | 7.7% | 24.1% | 16.3% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 困っていること

**お金で困っていることが例年通り高い**

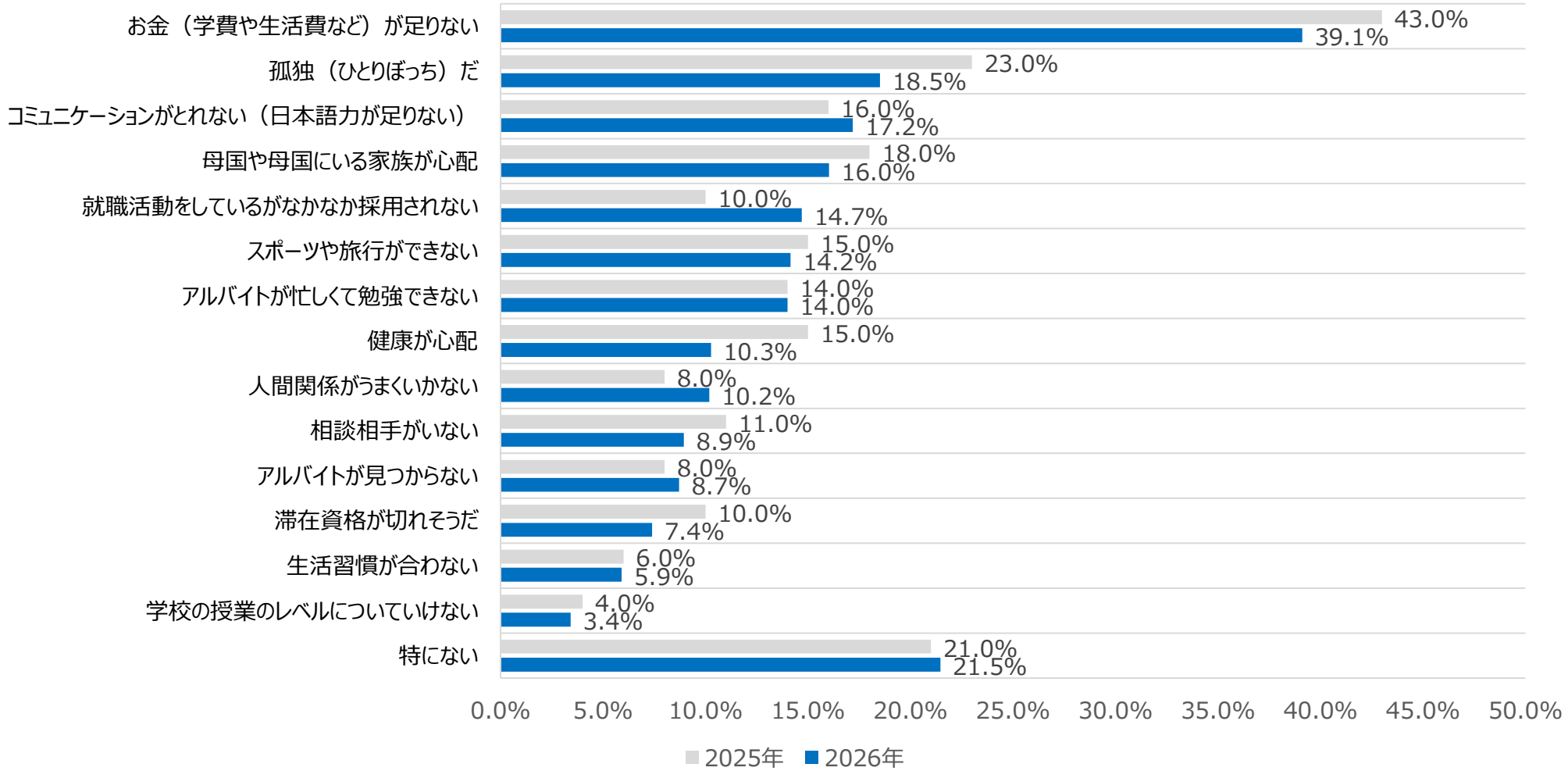


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 困っていること （2025年・2026年比較）

## Q. 今困っていることは何ですか？（複数回答可）

全体傾向として、例年と同様に「お金が足りないこと（学費・生活費）」が最も多く挙げられる困りごととなっている。これに続き、「孤独感」や「日本語でのコミュニケーションに関する課題」など、生活面・心理面に関わる要因が上位を占めている。一方、2025年と2026年の結果を比較すると、「健康が心配」「孤独感」といった項目は前年よりも低下しているのに対し、「就職活動をしているが、なかなか採用されない」は前年よりも割合が高くなっている。なお、こうした差異については、回答者の国籍構成や在籍する学校種別の違いが影響している可能性も考慮する必要がある。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 困っていること　（国籍別）

Q. 今困っていることは何ですか？（複数回答可）

国籍別に困りごとを見ると、国籍によって一定の差異が確認される。例えば、南アジア出身の学生では「お金が足りない」と回答する割合が相対的に高い傾向が見られる。また、ネパールおよびミャンマー出身の学生では、「アルバイトが忙しくて勉強できない」を困りごととして挙げる割合が高い。

| 困っていること | アジア内その他 | アジア外その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 中国 | 南アジア | 台湾・香港 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| お金（学費や生活費など）が足りない | 35.1% | 37.5% | 31.7% | 43.6% | 31.3% | 41.1% | 34.7% | 59.7% | 32.8% |
| 特にない | 27.3% | 21.9% | 36.6% | 15.0% | 34.4% | 15.3% | 26.0% | 13.9% | 16.4% |
| コミュニケーションがとれない（日本語力が足りない） | 26.0% | 31.3% | 22.0% | 9.8% | 17.5% | 6.1% | 15.3% | 26.4% | 46.3% |
| 孤独（ひとりぼっち）だ | 22.1% | 16.7% | 12.2% | 17.4% | 13.1% | 15.3% | 24.4% | 22.2% | 22.4% |
| 母国や母国にいる家族が心配 | 6.5% | 21.9% | 12.2% | 17.4% | 14.4% | 23.9% | 12.0% | 20.8% | 7.5% |
| スポーツや旅行ができない | 13.0% | 19.8% | 12.2% | 14.7% | 11.3% | 23.3% | 7.9% | 15.3% | 11.9% |
| 就職活動をしているがなかなか採用されない | 14.3% | 11.5% | 4.9% | 10.6% | 9.4% | 16.0% | 23.6% | 29.2% | 9.0% |
| 人間関係がうまくいかない | 10.4% | 20.8% | 4.9% | 6.3% | 4.4% | 11.7% | 10.3% | 16.7% | 22.4% |
| アルバイトが忙しくて勉強できない | 11.7% | 6.3% | 4.9% | 21.8% | 6.9% | 20.9% | 7.9% | 15.3% | 11.9% |
| アルバイトが見つからない | 11.7% | 14.6% | 12.2% | 5.7% | 9.4% | 4.3% | 7.9% | 20.8% | 9.0% |
| 相談相手がいない | 10.4% | 8.3% | 12.2% | 4.6% | 12.5% | 4.9% | 12.8% | 11.1% | 14.9% |
| 健康が心配 | 6.5% | 9.4% | 7.3% | 8.4% | 15.6% | 8.0% | 13.6% | 9.7% | 9.0% |
| 滞在資格が切れそうだ | 6.5% | 7.3% | 12.2% | 7.4% | 8.8% | 2.5% | 7.9% | 6.9% | 13.4% |
| 生活習慣が合わない | 2.6% | 8.3% | 4.9% | 7.9% | 11.3% | 2.5% | 4.1% | 2.8% | 1.5% |
| 学校の授業のレベルについていけない | 2.6% | 4.2% | 12.2% | 2.5% | 4.4% | 3.1% | 3.7% | 2.8% | 1.5% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 困っていること　（校種別）

## Q. 今困っていることは何ですか？（複数回答可）

在籍している学校種別ごとに困りごとを見ると、専門学校生では「アルバイトが忙しくて勉強できない」を挙げる割合が相対的に高い一方で、「人間関係」に関する悩みは比較的少ない傾向が見られる。これに対し、大学生および大学院生では「孤独感」を挙げる割合が高く、特に大学院生では「日本語でのコミュニケーションがうまくできない」といった課題が相対的に多い。また、大学生・大学院生では、「相談相手がいない」を困りごととして挙げる割合も高い傾向にある。

| 困っていること | 大学 | 大学院 | 専門学校 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| お金（学費や生活費など）が足りない | 41.8% | 41.9% | 41.5% | 31.0% |
| 特にない | 21.6% | 19.7% | 19.3% | 26.5% |
| コミュニケーションがとれない（日本語力が足りない） | 15.9% | 34.0% | 10.9% | 18.2% |
| 孤独（ひとりぼっち）だ | 23.1% | 21.2% | 16.2% | 17.9% |
| 就職活動をしているがなかなか採用されない | 17.3% | 22.2% | 13.7% | 9.6% |
| 母国や母国にいる家族が心配 | 10.6% | 16.7% | 18.4% | 15.0% |
| スポーツや旅行ができない | 12.0% | 12.8% | 14.4% | 16.0% |
| アルバイトが忙しくて勉強できない | 11.1% | 6.4% | 18.7% | 12.5% |
| 人間関係がうまくいかない | 12.5% | 14.3% | 7.3% | 11.2% |
| 健康が心配 | 11.5% | 10.3% | 9.6% | 10.5% |
| アルバイトが見つからない | 11.1% | 12.8% | 4.5% | 11.8% |
| 相談相手がいない | 12.0% | 11.8% | 6.6% | 9.3% |
| 滞在資格が切れそうだ | 5.8% | 9.9% | 6.4% | 8.6% |
| 生活習慣が合わない | 3.8% | 3.4% | 7.5% | 6.1% |
| 学校の授業のレベルについていけない | 3.4% | 2.5% | 3.7% | 3.5% |


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 推奨度

## 「NPSは去年と同水準」

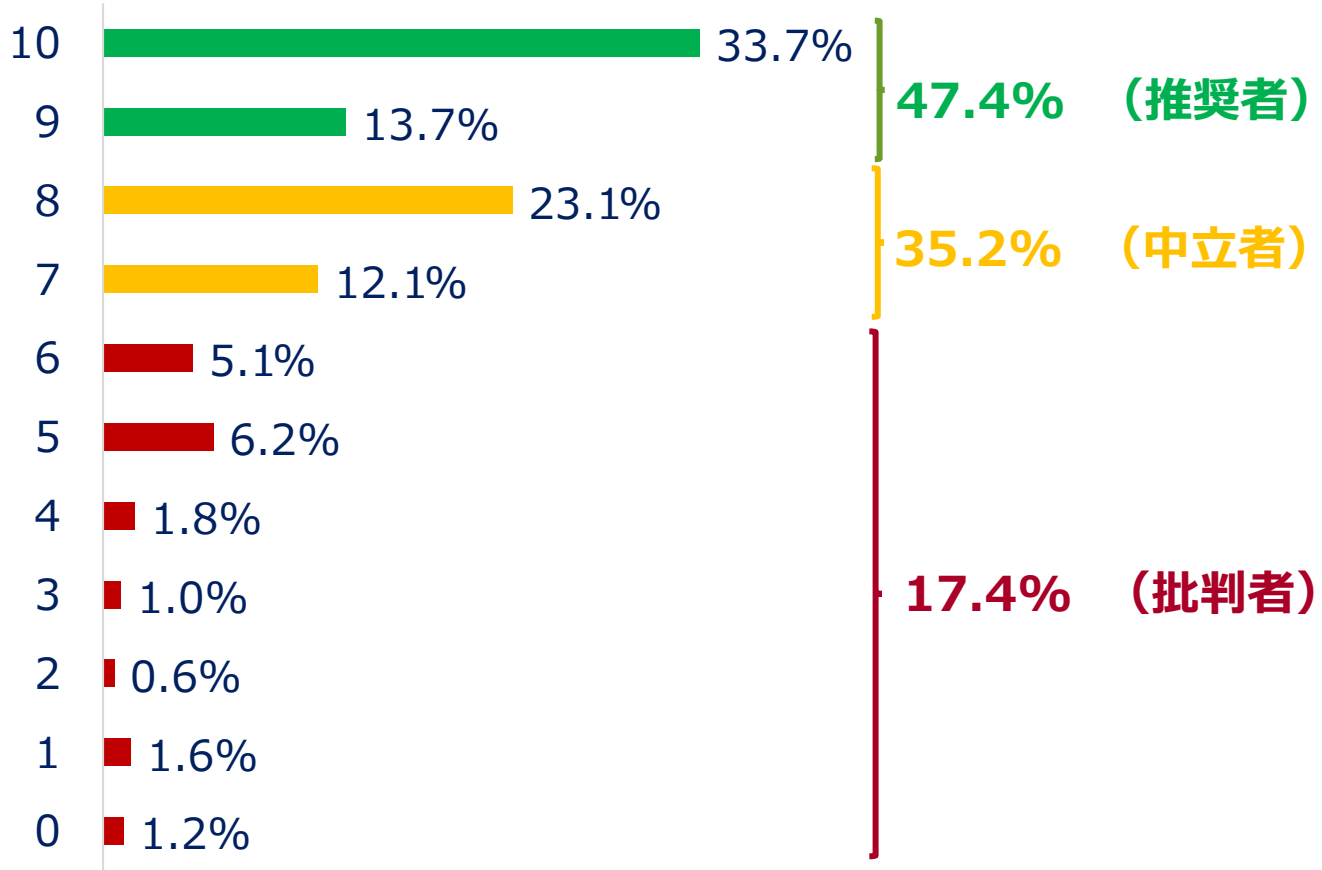


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 推奨度｜ ネット・プロモーター・スコア（NPS）

Q. 大阪を留学先として、母国にいる友人や知り合いや後輩の人達にお勧めする気持ちはどれほど強いですか。

NPSは 31。2024年と比べるとわずかに上昇している一方、2025年と比べると 1ポイント低い水準となっている。スコアとしては概ね同程度であり、大阪が留学生の渡航先としてポジティブに評価されている状況を示していると考えられる。




## ■ NPS

**+30.0**

## ■ NPSの推移

計算式：
推奨者(%) – 批判者(%)




### 解釈方法

NPSとは -100 ～ +100というスケールで何かのものまたはサービスを評価するための基準である。「好ましいスコア」に関する一般的な考え方は下記の通りである。

+0 以上は良い　　+20 以上が好ましい

+50を超えると優秀　　+80を超えるとトップレベル

©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 推奨度｜ネット・プロモーター・スコア（NPS） - 国籍別

Q. 大阪を留学先として、母国にいる友人や知り合いや後輩の人達にお勧めする気持ちはどれほど強いですか。

国・地域別にNPSを見ると、アジア外その他、ベトナム、台湾・香港といった地域では、全体平均を上回る比較的高いスコアが確認できる。一方、ネパールやミャンマーは相対的にスコアが低く、他地域と比べると推奨意向が弱い傾向にある。

| スコア | アジア外その他 | アジア内その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 台湾・香港 | 中国 | 南アジア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| NPS | +49.5 | +37.7 | +41.5 | +14.7 | +48.1 | +16.6 | +47.8 | +28.5 | +44.4 |
| | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 10 | 34.0% | 35.1% | 41.5% | 29.4% | 50.0% | 22.1% | 32.8% | 30.2% | 51.4% |
| 9 | 21.6% | 16.9% | 12.2% | 11.2% | 10.6% | 14.7% | 20.9% | 14.5% | 8.3% |
| 8 | 24.7% | 20.8% | 24.4% | 22.3% | 19.4% | 25.2% | 31.3% | 23.1% | 22.2% |
| 7 | 13.4% | 13.0% | 9.8% | 11.2% | 7.5% | 17.8% | 9.0% | 16.1% | 2.8% |
| 6 | 1.0% | 6.5% | 4.9% | 4.9% | 1.3% | 8.0% | 3.0% | 7.4% | 5.6% |
| 5 | 0.0% | 5.2% | 7.3% | 9.0% | 6.9% | 8.6% | 1.5% | 4.1% | 5.6% |
| 4 | 1.0% | 1.3% | 0.0% | 4.1% | 0.6% | 1.2% | 0.0% | 0.8% | 1.4% |
| 3 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.2% | 0.6% | 0.6% | 1.5% | 0.4% | 1.4% |
| 2 | 1.0% | 1.3% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.2% | 0.0% |
| 1 | 2.1% | 0.0% | 0.0% | 3.0% | 1.3% | 1.2% | 0.0% | 0.8% | 1.4% |
| 0 | 1.0% | 0.0% | 0.0% | 1.9% | 1.9% | 0.6% | 0.0% | 1.2% | 0.0% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 推奨度｜ネット・プロモーター・スコア（NPS） - 学校別

Q. 大阪を留学先として、母国にいる友人や知り合いや後輩の人達にお勧めする気持ちはどれほど強いですか。

教育機関の種類別に見ると、NPSスコアには顕著な差が確認される。例えば、大学院では＋49.8と高い水準である一方、専門学校では＋16.4となっている。
この背景にはNPSスコアーの低いネパールとミャンマーの学生が専門学校に多いことが考えられる。

| スコア | 専門学校 | 大学 | 大学院 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| NPS | +16.4 | +28.8 | +49.8 | +41.9 |
| | - | - | - | - |
| スコア | | | | |
| 10 | 29.6% | 29.8% | 37.4% | 40.9% |
| 9 | 11.8% | 13.0% | 19.2% | 14.1% |
| 8 | 20.5% | 30.8% | 24.6% | 21.7% |
| 7 | 13.2% | 12.5% | 11.8% | 10.2% |
| 6 | 5.7% | 6.3% | 3.9% | 3.8% |
| 5 | 9.3% | 3.4% | 2.5% | 5.1% |
| 4 | 3.4% | 1.0% | 0.0% | 0.6% |
| 3 | 1.8% | 0.5% | 0.0% | 0.6% |
| 2 | 0.7% | 1.0% | 0.0% | 0.6% |
| 1 | 2.3% | 1.0% | 0.5% | 1.3% |
| 0 | 1.8% | 1.0% | 0.0% | 1.0% |


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 推奨度｜ネット・プロモーター・スコア（NPS）- 推奨者である可能性が高い人

## Q. 大阪を留学先として、母国にいる友人や知り合いや後輩の人達にお勧めする気持ちはどれほど強いですか。

現行データを用いて、大阪の推奨者（プロモーター）となりやすい人物像を把握するため、ロジスティック回帰分析を実施した。その結果、国籍別ではベトナム出身者が相対的に推奨者となる可能性が高く、また、大学院生および日本語学校生においても推奨者となる傾向が確認された。特に注目される点として、「困っていること」と推奨意向との関係が挙げられる。「人間関係がうまくいかない」や「相談相手がいない」といった悩みを抱えている場合、大阪の推奨者となる可能性は相対的に低くなる傾向が見られた。これらの結果は、生活面・心理面の課題への対応が進むことで、推奨意向の向上につながる可能性を示唆している。

| 観点 | 推奨者 |
|---|---|
| **国籍・地域：** | • ベトナム<br>それ以外の国籍については有意な傾向なし |
| **学校種別：** | • 大学院 ／ 日本語学校 |
| **日本で働きたい理由：** | • 日本の企業で経験を積みたい |
| **困りごと：** | • 相談相手がいない　ことについて困ってない<br>• 人間関係がうまくいかない　ことについて困っていない |

※年齢、性別、日本語能力、学習分野が相対的に推奨者となる可能性は高いとも低いとも言えない結果であった。


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 満足度

**「過去最高の満足度が得られた」**

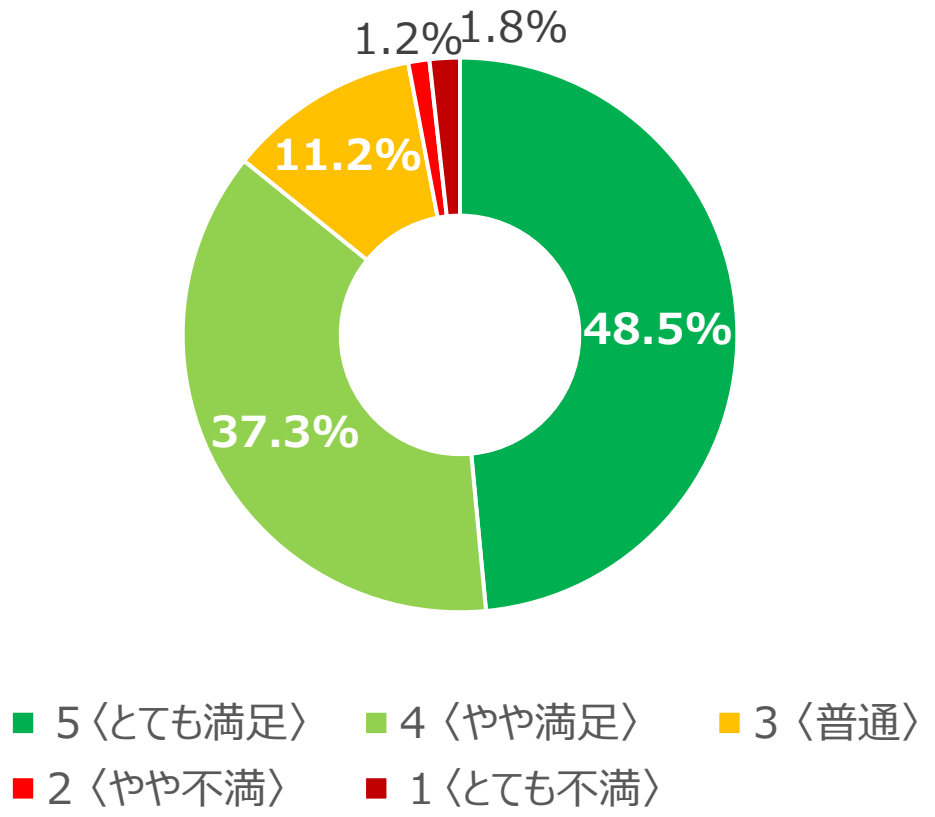


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 満足度｜ 経年比較

Q. 大阪での留学に関しては全体的にどのぐらい満足していますか（１＝とても不満，２， ３， ４，５＝とても満足）

今年度の総合満足度は 85.8%。2021年以降、満足度は一貫して上昇しており、過去最高水準となった。

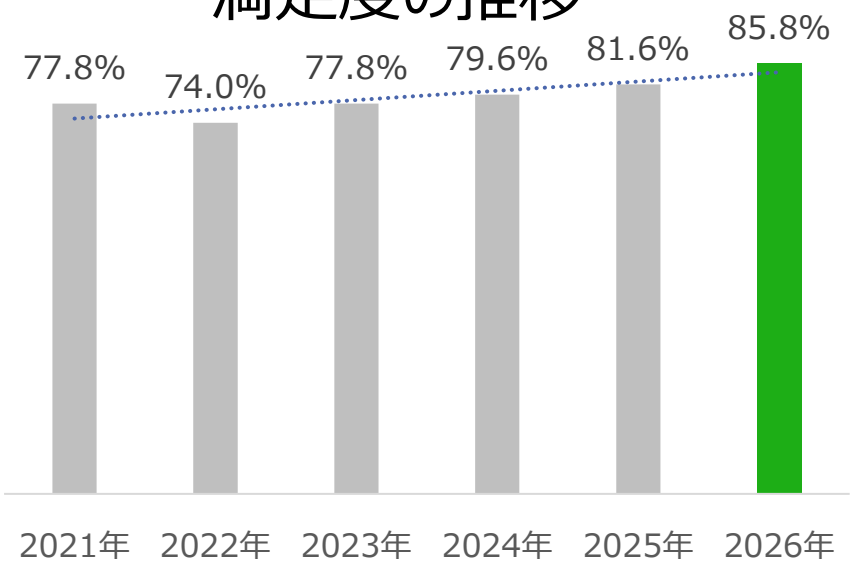



満足度

**85.8%**

4・5を回答した人

満足度の推移






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 満足度｜ 国籍別の結果

Q. 大阪での留学に関しては全体的にどのぐらい満足していますか（１＝とても不満，２， ３， ４，５＝とても満足）

国籍別に満足度を見ると、アジア外（その他）、インドネシア、台湾・香港などの地域では、特に高い水準が確認できる。一方で、ネパールとミャンマーは相対的に満足度が低い傾向にある。ただし、これらの国についても、前年と比較すると満足度は上昇しており、改善が見られる。

| | アジア外その他 | アジア内その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 台湾・香港 | 中国 | 南アジア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 満足度 | 93.8% | 87.0% | 92.7% | 80.9% | 88.1% | 79.1% | 92.5% | 89.7% | 87.5% |
| | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 5〈とても満足〉 | 43.3% | 39.0% | 41.5% | 53.7% | 65.0% | 32.5% | 47.8% | 44.2% | 59.7% |
| 4〈やや満足〉 | 50.5% | 48.1% | 51.2% | 27.2% | 23.1% | 46.6% | 44.8% | 45.5% | 27.8% |
| 3〈普通〉 | 3.1% | 7.8% | 7.3% | 13.9% | 10.6% | 17.8% | 6.0% | 9.1% | 9.7% |
| 2〈やや不満〉 | 1.0% | 0.0% | 0.0% | 3.0% | 0.0% | 1.2% | 1.5% | 0.4% | 0.0% |
| 1〈とても不満〉 | 2.1% | 5.2% | 0.0% | 2.2% | 1.3% | 1.8% | 0.0% | 0.8% | 2.8% |
| | | | | | - | | | | |
| 2025年の結果 | 89.4% | 82.3% | 77.1% | 76.5% | 79.2% | 76.5% | 89.0% | 88.1% | 85.7% |
| 前年比 | +4.4% | +4.7% | +15.6% | +4.4% | +8.9% | +2.6% | +3.5% | +1.6% | +1.8% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 満足度｜ 校種別の結果

Q. 大阪での留学に関しては全体的にどのぐらい満足していますか（１＝とても不満，２， ３， ４，５＝とても満足）

満足度を見ると、いずれの教育機関においても不満の割合が特に高いわけではないことが確認される。一方で、全体的な満足度は専門学校で相対的に低く、大学院で最も高い傾向が見られる。前ページで示したとおり、ネパールとミャンマーといった国・地域の出身者は、満足度が相対的に低い傾向にある。これらの国出身者の構成比が専門学校や日本語学校で高い場合、この結果は当然だと考えられる。そのため、満足・不満を分けている要因が何であるのかを把握するためには、ロジスティック回帰分析など、さらなる分析が必要である。

| | 日本語学校 | 専門学校 | 大学 | 大学院 |
|---|---|---|---|---|
| 満足度 | 87.2% | 80.2% | 91.3% | 94.1% |
| – | – | – | – | – |
| 5〈とても満足〉 | 52.1% | 47.6% | 46.2% | 48.3% |
| 4〈やや満足〉 | 35.1% | 32.6% | 45.2% | 45.8% |
| 3〈普通〉 | 10.9% | 15.3% | 6.3% | 4.4% |
| 2〈やや不満〉 | 0.3% | 2.3% | 1.0% | 0.0% |
| 1〈とても不満〉 | 1.6% | 2.1% | 1.4% | 1.5% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 留学生支援コンソーシアム大阪の取り組み

**「OGSANの参加率が前年より高い」**



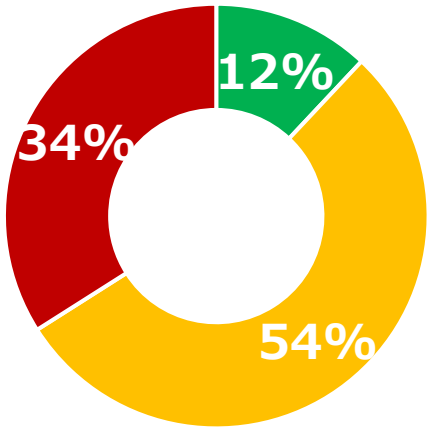
©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 留学生支援コンソーシアム大阪の取り組み ｜ OGSANの認知度

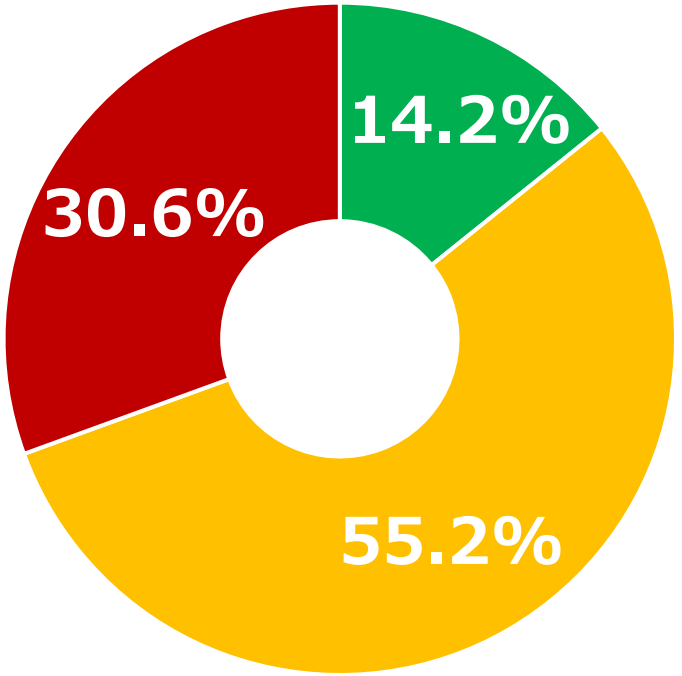
Q. OGSAN（大阪の留学生のアンバサダーネットワーク）に登録していますか。

調査対象者のうち、留学生のアンバサダーネットワークのメンバーであると回答した割合は14.2%であった。一方で、同ネットワークについて「知らない」と回答した人が多数を占めており、今後、より多くのメンバーを獲得していく余地が大きいと考えられる。

■ 2025年




■ 2026年




■ はい　■ 知らない・OGSANは何か知らない。　■ いいえ

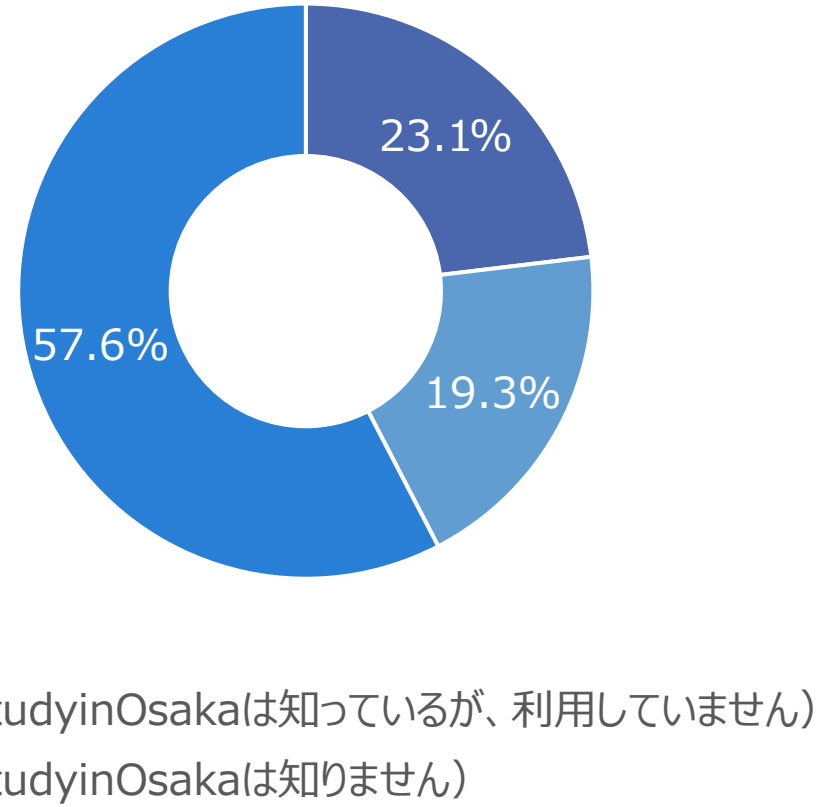


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 留学生支援コンソーシアム大阪の取り組み ｜ Studyinosaka.com - 就職情報の認知度

Q.我々のポータルサイトStudyinOsakaには「就職」情報を掲載しています。あなたはそれを利用していますか

StudyInOsakaを利用し、同サイト上の就職情報を閲覧したと回答した学生は23.1%であった。一方で、57.6%の人が当該ウェブサイトを「知らない」と回答している。こうした数値は、同サイトの認知度を把握・推移管理するためのKPIとして活用することが可能であり、今後はサイトの認知を高めるための取り組みが必要であることを示している。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 進路・就職

## SECTION 4



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 進路・就職に関する分析概要

本章では、今年度の年次報告書におけるメインテーマである「進路・就職」に焦点を当てる。

**主な内容として、**

- 卒業後にどこで働きたいと考えているか
- 日本での就労意向の強さ
- 希望する企業の種類（日本企業・外資系企業など）
- 日本で働きたい理由／働きたくない理由
- 就職活動における不安要素および学生自身が考える解決策

といった観点から整理している。

**また、単なる意向の把握にとどまらず、**

- 特に日本での就労意向が強い層の特徴
- 日本企業志向と外資系志向の違い
- 就職指導に対する満足度と関連する要因

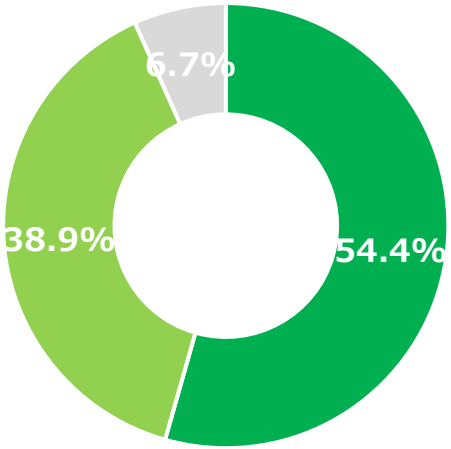
などを分析し、留学生の進路意識の全体像を明らかにすることを目的としている。

# 進路｜ 日本に残りたい気持ち

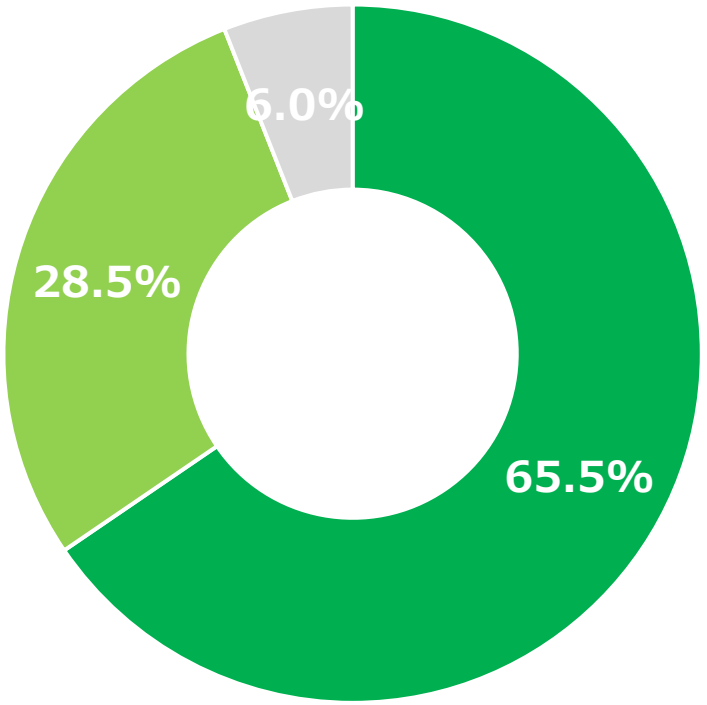
Q.今の学校を卒業後、日本に残る気持ちはありますか（一番可能性が高いものを選んでください）

現在在籍している教育機関を卒業後の進路を見ると、進学や就職といった形で、次のステージにおいても日本に留まることを希望する学生が大多数を占めている。また、前年との比較では、日本での就労を希望すると回答した割合が大きく上昇しているが、これは専門学校生の回答比率が増加した影響による可能性が高い。

■ 2025年




■ 2026年




■ 日本で就職する　■ 日本で進学する　■ 日本で進学・就職しない



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 進路｜ 日本に残りたい気持ち（国籍別）

Q.今の学校を卒業後、日本に残る気持ちはありますか（一番可能性が高いものを選んでください）

国籍別に、卒業後の進路について見ると、いくつかの違いが確認される。例えば、ネパール出身者では「日本で就職する」と回答した割合が特に高い一方、「アジア外その他」の出身者は、他の国籍と比べて日本に残らないと回答する割合が高い傾向にある。これらの結果は、次ページで示すとおり、在籍している教育機関の種類と強く関連している可能性が高い。

| 日本に残りたい度合 | アジア外その他 | アジア内その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 台湾・香港 | 中国 | 南アジア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本で就職する | 46.4% | 55.8% | 51.2% | 82.3% | 52.5% | 67.5% | 62.7% | 62.0% | 62.5% |
| 日本で進学する | 33.0% | 31.2% | 39.0% | 16.6% | 41.3% | 31.9% | 26.9% | 30.6% | 33.3% |
| 日本で進学・就職しない | 20.6% | 13.0% | 9.8% | 1.1% | 6.3% | 0.6% | 10.4% | 7.4% | 4.2% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 進路｜ 日本に残りたい気持ち（校種別）

Q.今の学校を卒業後、日本に残る気持ちはありますか（一番可能性が高いものを選んでください）

進路先は学校の種類と強く関連している。専門学校では、卒業後の主な進路として就職を選択する割合が高い。一方、日本語学校では、大学や専門学校への進学を希望する傾向が見られる。これらとは異なり、大学院生については、日本に留まりたいと回答する人が大多数を占めているものの、卒業後に日本を離れる可能性が相対的に高いことも確認されている。

| 日本に残りたい度合 | 日本語学校 | 専門学校 | 大学 | 大学院 |
|---|---|---|---|---|
| 日本で就職する | 30.4% | 86.8% | 63.9% | 62.6% |
| 日本で進学する | 64.9% | 10.7% | 27.4% | 22.7% |
| 日本で進学・就職しない | 4.8% | 2.5% | 8.7% | 14.8% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたい気持ち

## 「55.6%は必ず日本で働きたいと思っている」

- 日本で働きたい気持ちの強さ
- 日本での強い就労意向と関連する要因（ロジステック回帰分析の結果）

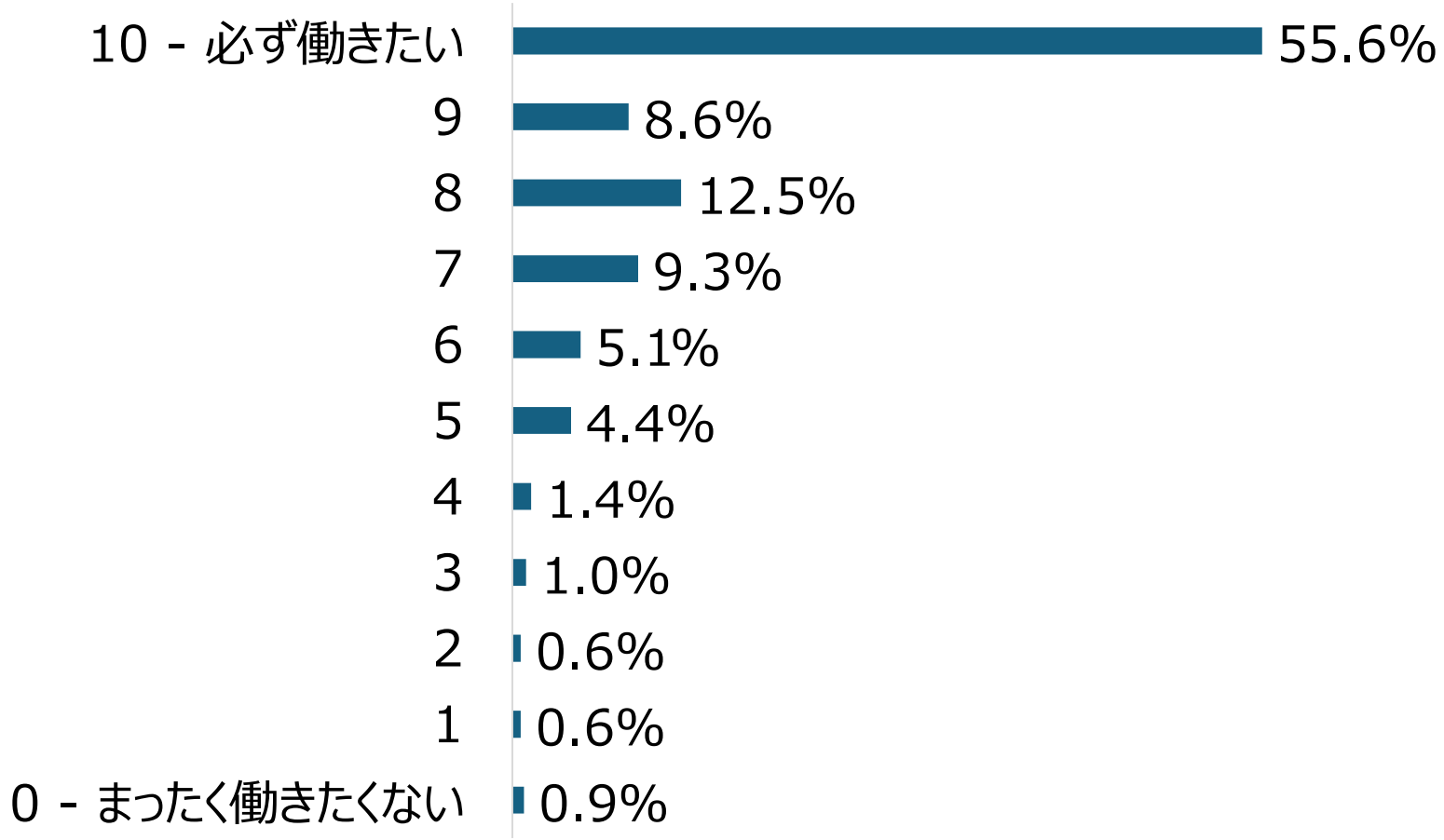


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたい気持ち ｜ 単純集計

Q. あなたは日本で働きたいと思う気持ちはどれほど高いですか

今年度の調査では初めて、「日本で働きたい」という意向の強さについて、1～10の尺度で回答を求めた。その結果、最も高い評価である「10」を選択した割合は55.6%となっている。こうしたデータについては、ロジスティック回帰分析などの分析手法と併せて活用することで、日本で働きたい意向がより強い人と結びついている要因を把握することが可能である。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたい気持ち ｜ 国籍別の結果

Q. あなたは日本で働きたいと思う気持ちはどれほど高いですか

日本で就職したいと考える確率に着目すると、ネパール出身者が最も高く、次いで南アジア出身者が続いていることが確認できる。在籍している学校の種類との関連が特に強い可能性がある。

| | アジア外その他 | アジア内その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 台湾・香港 | 中国 | 南アジア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10・9の回答率 | 45.4% | 42.9% | 46.3% | 83.4% | 70.0% | 56.4% | 47.8% | 54.1% | 79.2% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたい気持ち ｜ 校種別の結果

Q. あなたは日本で働きたいと思う気持ちはどれほど高いですか

「日本で働きたい」という意向が強い層に着目すると、専門学校生が最も高く、76.5%が該当している。一方、大学生では「9」または「10」と回答した割合が45.2%にとどまり、最も低い結果となっている。

| | 専門学校 | 大学 | 大学院 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| 10・9の回答率 | 76.5% | 45.2% | 49.8% | 64.2% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本での強い就労意向と関連する要因の分析 ｜まとめ

日本で働きたい気持ちが強い人とは － ロジスティック回帰分析の結果

日本で強く働きたいと考える人の特徴を把握するため、多変量分析を実施した。主に国籍、学校の種類、日本での仕事に対する不安等が就労意向の強さと関連している。詳細は次ページ以降に示す。

## 日本での就労意向が高い人とはどのような人かを把握する分析を実施

Q. あなたは日本で働きたいと思う気持ちはどれほど高いですか

| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

特に日本で働きたい気持ちが強い方

## 日本での就労意向の高さと関連する要因

| 国籍 | 教育機関 | NPS |
|---|---|---|
| ネパール、南アジア 高い | 専門学校生、日本語学校生 高い | 推奨者 高い<br>批判者 低い |

| 日本での就労に関して不安に思っていること | 日本で働きたい理由 |
|---|---|
| • 残業が多いイメージ 低い<br>• 日本での働き方（年功序列・上下関係）に関する不安 低い<br>• 母国・他国に行きたい 低い | • 日本の文化や生活が好き 高い<br>• 日本の企業で経験を積みたい 高い<br>• 日本で長く生活したい 高い<br>• 自分の望む生活ができると感じている 高い |

## 日本での就労意向の高さとの関連が確認されなかった要因

性別、年齢、専攻分野、日本語能力、困っていること

※具体的なオッズ比などの詳細については別途提供可能



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本での強い就労意向と関連する要因の分析　1/2

日本で働きたい気持ちが強い人とは　－　ロジスティック回帰分析の結果

**分析概要**
本分析では、「留学生の現状調査2026年」に回答した1,285名を対象に、日本で「**強く働きたいと考えているかどうか**」を目的変数としたロジスティック回帰分析を実施した。
属性情報、在籍している教育機関、日本語能力、日本で働くことに対する意識・不安、ならびに日本で働きたい理由等を同時に統制することで、強い就労意向と関連する要因の把握を試みた。
以下では、統計的に有意な関連が確認された項目を中心に結果を整理する。

**日本で働きたいという強い意向と関連して「長時間労働・年功序列制度」に対するイメージが低下する可能性**

**1. 国籍 – ネパール、南アジアが高い**
国籍については、他の要因を統制した上で比較すると、**ネパール（基準値）**および**南アジア出身者**と比べ、ネパール／南アジア以外の国・地域出身者は、日本で強く働きたいと考える確率が統計的に低い傾向が確認された（例：ベトナム：約56%減、中国：約73%減）。
これは、他の国・地域出身者が日本で働く意向を持っていないことを示すものではなく、ネパールおよび南アジア出身者において、就労意向の強さが相対的に非常に高いことを示している結果だと考えられる。

**2. 教育機関の種類 －　専門学校、日本語学校が高い**
在籍している教育機関の種類別に見ると、専門学校（基準値）と日本語学校の間では、日本で強く働きたいと考える確率に有意な差は見られなかった。一方、大学生および大学院生は、専門学校生と比較して、日本で働きたいという強い意向を示す確率が約半分程度低い結果となった（例：大学生：約54%減、大学院生：約55%減）。
専門学校は就業を前提とした教育内容であることが多く、在学目的自体が日本での就職と強く結びついていることを踏まえると、こうした結果は一定の妥当性を持つと考えられる。

**3. 日本での仕事に関して心配していること　－　長時間労働のイメージ、年功序列制度が課題**
以下の点に不安を感じている場合、日本で強く働きたいと考える確率が統計的に低くなる傾向が確認された。
- 残業が多いというイメージ（心配していない人に比べ、約47%減）
- 日本の働き方（年功序列・上下関係など）への不安（心配していない人に比べ、約33%減）
- 母国または他国へ行きたいという意向（思っていない人に比べ、約78%減）

特に、他国での就労・生活を希望しているかどうかについては、施策等のアクションによって直接的に緩和することが難しい要因である。一方で、長時間労働や日本特有の働き方に対する不安については、労働環境の改善、多様な働き方を実践している企業の可視化、あるいは日本の労働環境に関するより透明な情報発信を通じて、一定程度対応可能な領域であると考えられる。こうした不安の軽減を図ることにより、日本で強く働きたいと考える人の増加につながる可能性がある。

※本ページに記載している「%」は、ロジスティック回帰分析におけるオッズ比に基づく増減を示している。


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本での強い就労意向と関連する要因の分析 2/2

日本で働きたい気持ちが強い人とは　－　ロジスティック回帰分析の結果

**4. 日本で働きたい理由 – 生活スタイル志向の重要性**

日本で働きたい理由に関する変数は、目的変数と概念的に近い側面を持つものの、本分析に含めることで、「特に強い就労意向」と結びつきやすい動機を把握することが可能となる。
分析の結果、以下の理由を挙げた人は、日本で強く働きたいと考える確率が統計的に高いことが確認された。

- 日本の文化や生活が好き
- 日本の企業で経験を積みたい
- 日本で長く生活したい（永住を視野に入れている）
- 自分の望む生活ができると感じている

これらはいずれも、日本での生活やキャリアを長期的に捉えている動機であり、就労意向の強さと密接に関連していることが示唆される。

**5. 留学先としての大阪に対する評価（NPS）と就労意向　－　総合的な満足度の重要性**




留学先として大阪を他者に推奨したいかどうか（NPS）についても説明変数として含めている。その結果、大阪の推奨者（Promoter）である回答者は、日本で強く働きたいと考える確率が統計的に高い（中位者（NPSで７と８を回答した）に比べ、約106%増）。
一方批判者（Detractor）ではその確率が低いことが確認された（中位者に比べ、約37%減）。
この結果は、留学中における大阪での総合的な満足度や評価が、その後の日本での就労意向の強さと密接に関連していることを示している。
すなわち、留学生が在学中に大阪で良好な経験を積み、留学先として高く評価している場合、日本での就労を強く志向する可能性が高まる傾向がある。
こうした点を踏まえると、留学生を将来的な就労人材として捉える上では、在学中の満足度や体験価値を高める取組が重要であり、就職支援のみならず、生活環境や学習環境を含めた総合的な満足度向上が、日本で働きたいと考える人材の増加につながる可能性が示唆される。

**有意な差が確認されなかった要因**

**6. 年齢・性別・日本語能力・専攻分野・困っていること**

年齢、性別、日本語能力、在籍機関での専攻分野については、他の要因を統制した上で、日本で強く働きたいという意向との間に統計的に有意な差は確認されなかった。すなわち、年齢や性別、日本語能力の高低といった属性要因は、日本で強く働きたいという意向を有するかどうかを有意に説明する要因とはなっていない。

※本ページに記載している「%」は、ロジスティック回帰分析におけるオッズ比に基づく増減を示している。


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 働きたい地域とその理由

## 「大阪が就職先として特に人気」

- 働きたい地域
- 日本で働きたい理由
- 日本で働きたいと思わない



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 働きたい地域

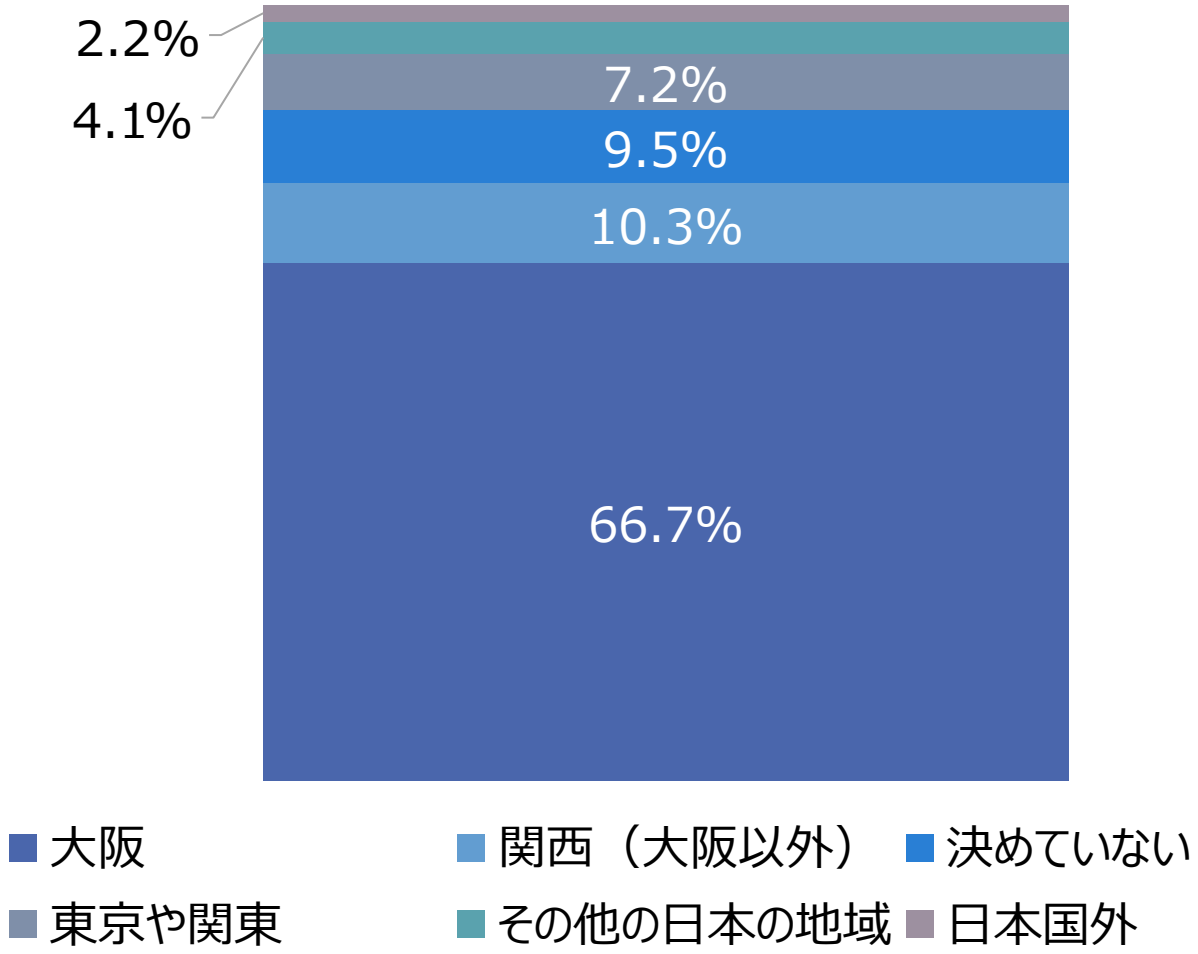


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職｜ 働きたい地域

Q. 一番働きたい地域はどこですか

日本で働きたいと回答した人のうち、66.7%が「大阪で働きたい」と回答しており、10.3%は「大阪以外の関西」と回答している。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職｜ 働きたい地域 - 国籍別の結果

Q. 一番働きたい地域はどこですか

国籍別に見ると、いくつかの違いが確認される。例えば、ベトナム、ミャンマー、南アジアでは、大阪で働きたいと考える傾向が特に強い。一方、中国についても大阪を選択する人は多いものの、他の国籍と比較すると「関東」を選択する割合が相対的に高い傾向が見られる。

| 一番働きたい地域はどこですか | アジア外その他 | アジア内その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 台湾・香港 | 中国 | 南アジア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大阪 | 42.3% | 45.5% | 48.8% | 73.0% | 81.3% | 69.3% | 58.2% | 65.3% | 75.0% |
| 関西（大阪以外） | 18.6% | 15.6% | 12.2% | 9.8% | 6.3% | 7.4% | 20.9% | 6.2% | 13.9% |
| 東京や関東 | 7.2% | 10.4% | 7.3% | 5.2% | 3.1% | 10.4% | 3.0% | 12.0% | 4.2% |
| 日本国外 | 7.2% | 5.2% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 2.5% | 4.5% | 2.9% | 0.0% |
| その他の日本の地域 | 5.2% | 2.6% | 7.3% | 6.0% | 1.9% | 4.3% | 3.0% | 2.9% | 2.8% |
| 決めていない | 19.6% | 20.8% | 24.4% | 5.2% | 7.5% | 6.1% | 10.4% | 10.7% | 4.2% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職｜ 働きたい地域 – 校種別の結果

Q. 一番働きたい地域はどこですか

在籍している校種別に見ると、大学生および大学院生では、「決まっていない」と回答する割合が相対的に高く、専門学校生や日本語学校生と比べて「大阪」を選択する割合が低い傾向が見られる。

| 一番働きたい地域はどこですか | 日本語学校 | 専門学校 | 大学 | 大学院 |
|---|---|---|---|---|
| 大阪 | 70.0% | 72.7% | 63.0% | 49.3% |
| 決めていない | 10.2% | 5.7% | 13.9% | 14.3% |
| 関西（大阪以外） | 9.6% | 9.3% | 5.3% | 19.2% |
| 東京や関東 | 5.4% | 5.3% | 13.0% | 9.4% |
| その他の日本の地域 | 3.2% | 5.3% | 1.9% | 3.9% |
| 日本国外 | 1.6% | 1.6% | 2.9% | 3.9% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

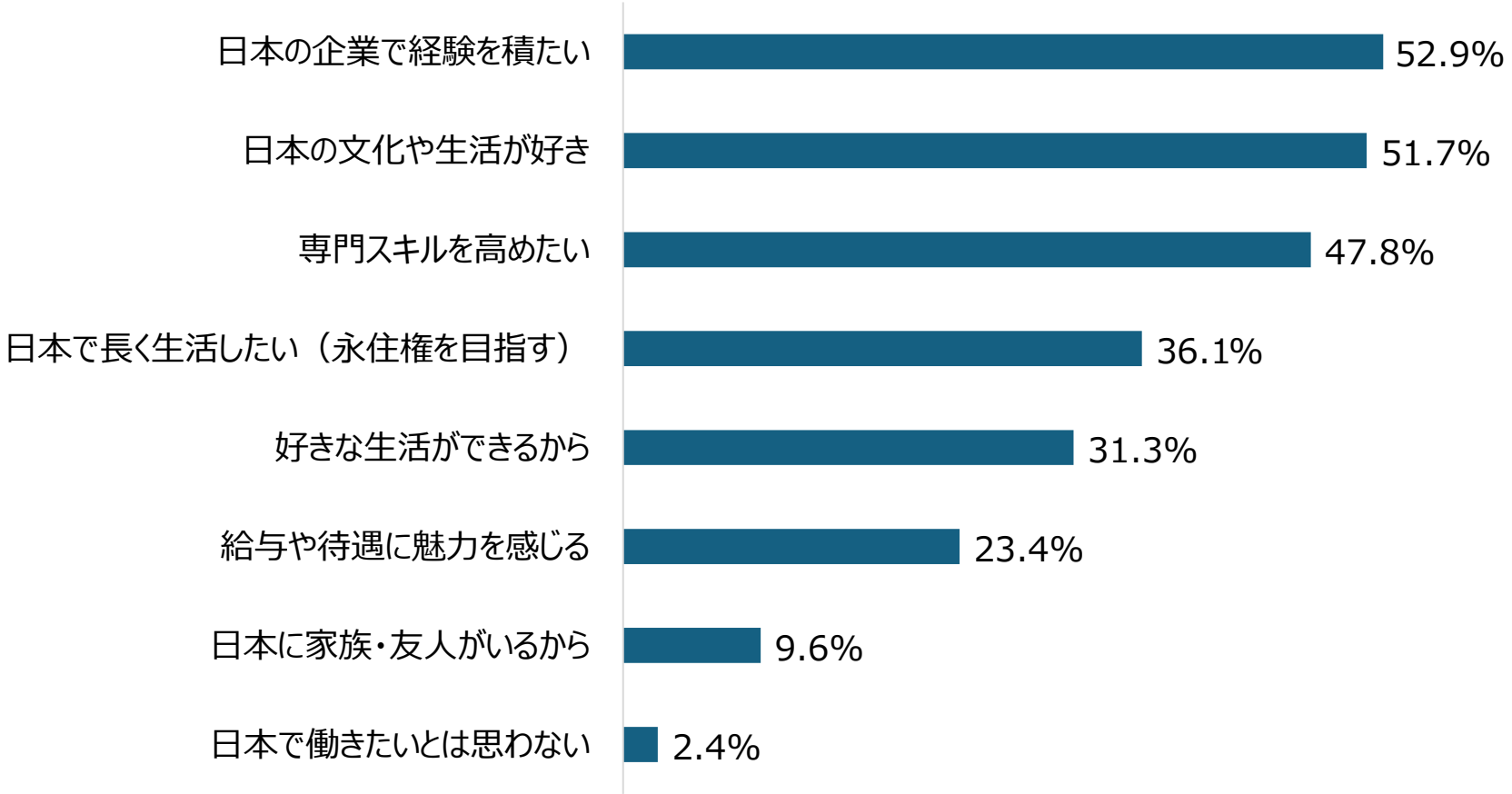
# 日本で働きたい理由


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたい理由

Q. 日本で働きたいなら、その理由を教えてください（複数選択）

日本で働きたい理由を見ると、全体として「日本の企業で経験を積みたい」「日本の文化や生活が好き」「専門スキルを高めたい」といった動機が主に挙げられている。一方で、「給与や待遇が魅力的である」というイメージや日本に家族・友人がいることを理由とする割合は相対的に低い。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたい理由（国籍別）

## Q. 日本で働きたいなら、その理由を教えてください（複数選択）

日本で働きたい理由は、国籍によって傾向が異なる。例えば、ネパール出身者は全体的に各理由の選択率が他国と比べて低いものの、「日本の企業で経験を積みたい」を理由として挙げる割合は相対的に高い。一方、ベトナム出身者では、複数の理由が幅広く選択されており、特に「給与や待遇に魅力を感じる」を理由とする割合が他国と比べて高い傾向が見られる。また、中国および台湾・香港出身者では、「日本で長く生活したい（永住権を目指す）」を理由として挙げる割合が比較的高い。

| 日本で働きたい理由 | アジア内その他 | アジア外その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 中国 | 南アジア | 台湾・香港 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本の文化や生活が好き | 53.2% | 63.5% | 53.7% | 53.7% | 62.5% | 24.5% | 47.9% | 66.7% | 58.2% |
| 日本の企業で経験を積たい | 50.6% | 37.5% | 41.5% | 59.4% | 69.4% | 58.3% | 35.5% | 55.6% | 56.7% |
| 専門スキルを高めたい | 51.9% | 41.7% | 48.8% | 46.6% | 57.5% | 55.2% | 33.9% | 58.3% | 56.7% |
| 日本で長く生活したい（永住権を目指す） | 22.1% | 45.8% | 34.1% | 24.3% | 38.8% | 23.3% | 53.7% | 44.4% | 55.2% |
| 好きな生活ができるから | 35.1% | 35.4% | 39.0% | 22.1% | 39.4% | 19.0% | 45.0% | 23.6% | 37.3% |
| 給与や待遇に魅力を感じる | 22.1% | 12.5% | 22.0% | 12.0% | 41.3% | 17.8% | 36.0% | 19.4% | 34.3% |
| 日本に家族・友人がいるから | 11.7% | 11.5% | 7.3% | 3.8% | 16.3% | 1.2% | 16.1% | 13.9% | 13.4% |
| 日本で働きたいとは思わない | 6.5% | 6.3% | 2.4% | 1.4% | 1.3% | 2.5% | 1.7% | 1.4% | 4.5% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたい理由（校種別）

Q. 日本で働きたいなら、その理由を教えてください（複数選択）

日本で働きたい理由については、在籍する学校種別によっても一定の違いが見られる。専門学校生では、「日本の企業で経験を積みたい」や「専門スキルを高めたい」を理由として挙げる割合が高い。一方、大学院生では「日本の文化や生活が好き」といった生活・文化志向の理由が相対的に多く、大学生では「好きな生活ができるから」を理由とする割合が高い傾向が見られる。

| 日本で働きたい理由 | 大学 | 大学院 | 専門学校 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| 日本の文化や生活が好き | 45.2% | 58.1% | 49.0% | 56.5% |
| 日本の企業で経験を積たい | 44.2% | 44.8% | 59.0% | 53.0% |
| 専門スキルを高めたい | 38.0% | 47.8% | 50.3% | 50.2% |
| 日本で長く生活したい（永住権を目指す） | 40.4% | 46.8% | 29.8% | 37.4% |
| 好きな生活ができるから | 40.9% | 36.5% | 24.8% | 33.5% |
| 給与や待遇に魅力を感じる | 29.3% | 34.5% | 17.3% | 23.3% |
| 日本に家族・友人がいるから | 10.1% | 13.8% | 6.1% | 12.8% |
| 日本で働きたいとは思わない | 3.4% | 4.9% | 1.8% | 1.3% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

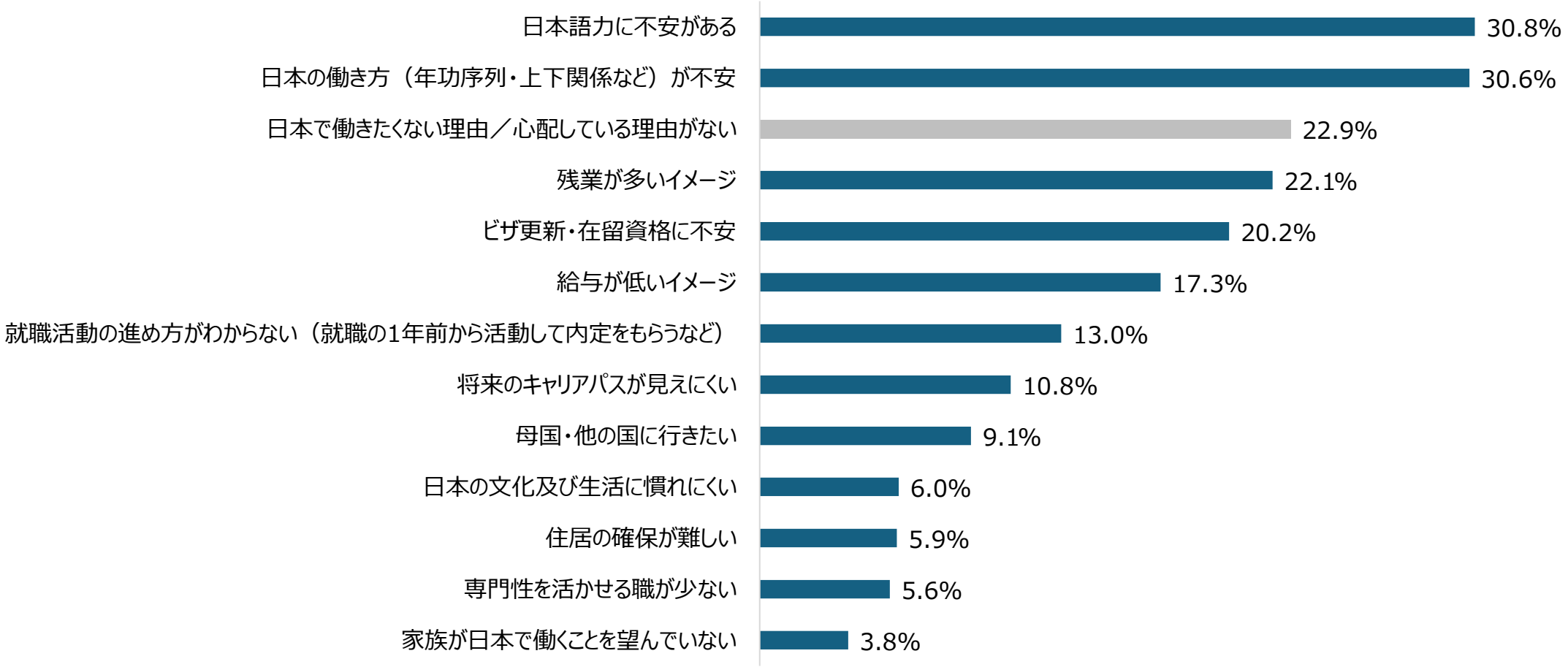
# 日本で働きたくない理由


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたくない／心配している理由

## Q. 日本で働きたくない／心配している理由を教えてください（複数選択）

日本で働くことに対する不安要因を見ると、「日本語能力への不安」や「日本の働き方（年功序列制度など）」が主な懸念点として挙げられている。一方で、「住居の確保が難しい」「日本の文化や生活に慣れにくい」といった点については、相対的に不安として挙げられる割合は低い。また、本レポートではこれらの不安要因が日本での就労意向にどの程度影響しているかについて追加分析を行った。その結果、「日本の働き方」や「残業が多いというイメージ」に不安を抱いている場合、日本で働きたいという意向が特に高くなる可能性は低いことが示唆された。





©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたくない理由（国籍別）

## Q. 日本で働きたくない／心配している理由を教えてください（複数選択）

国籍別に見ると、日本で働くことに対する不安要因には全体的に一定の差異が見られる。例えば、ネパール出身の学生では、就労に関する不安項目を挙げる割合が全体的に低い傾向にある。一方、ベトナム出身の学生では、「ビザ更新・在留資格に対する不安」を挙げる割合が相対的に高い。また、中国出身の学生では、「就職活動の進め方がわからない」を不安要因として挙げる割合が高い傾向が見られる。

| 心配事 | アジア内その他 | アジア外その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 中国 | 南アジア | 台湾・香港 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本の働き方（年功序列・上下関係など）が不安 | 40.3% | 39.6% | 51.2% | 12.0% | 28.1% | 35.6% | 45.0% | 15.3% | 52.2% |
| 日本語力に不安がある | 39.0% | 39.6% | 43.9% | 21.5% | 37.5% | 16.0% | 38.8% | 27.8% | 46.3% |
| 残業が多いイメージ | 40.3% | 51.0% | 39.0% | 10.4% | 12.5% | 28.8% | 16.1% | 29.2% | 32.8% |
| ビザ更新・在留資格に不安 | 14.3% | 20.8% | 22.0% | 20.7% | 33.1% | 7.4% | 20.7% | 13.9% | 28.4% |
| 給与が低いイメージ | 16.9% | 32.3% | 12.2% | 9.3% | 16.9% | 19.0% | 19.0% | 27.8% | 20.9% |
| 就職活動の進め方がわからない（就職の1年前から活動して内定をもらうなど） | 9.1% | 14.6% | 17.1% | 7.9% | 13.8% | 11.0% | 20.7% | 13.9% | 14.9% |
| 母国・他の国に行きたい | 19.5% | 16.7% | 12.2% | 4.4% | 5.0% | 13.5% | 9.5% | 2.8% | 14.9% |
| 将来のキャリアパスが見えにくい | 7.8% | 16.7% | 12.2% | 11.2% | 14.4% | 7.4% | 10.7% | 4.2% | 10.4% |
| 住居の確保が難しい | 11.7% | 6.3% | 7.3% | 4.1% | 7.5% | 2.5% | 7.9% | 1.4% | 10.4% |
| 専門性を活かせる職が少ない | 6.5% | 6.3% | 4.9% | 3.8% | 6.9% | 5.5% | 4.5% | 11.1% | 9.0% |
| 日本の文化及び生活に慣れにくい | 5.2% | 3.1% | 4.9% | 4.1% | 5.6% | 8.6% | 9.1% | 4.2% | 7.5% |
| 家族が日本で働くことを望んでいない | 3.9% | 2.1% | 0.0% | 3.3% | 2.5% | 1.8% | 7.4% | 2.8% | 7.5% |
| | | | | | | | | | |
| 日本で働きたくない理由／心配している理由がない | 18.2% | 22.9% | 12.2% | 29.4% | 30.6% | 17.8% | 15.7% | 25.0% | 16.4% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 日本で働きたくない理由（校種別）

## Q. 日本で働きたくない／心配している理由を教えてください（複数選択）

在籍している学校種別ごとに見ると、日本で働くことに対する不安の程度には違いが見られる。専門学校生では、就労に関する不安を挙げる割合が全体的に低い傾向にある。一方、大学院生では「日本語能力」に関する不安を挙げる割合が相対的に高い。また、大学生では不安項目が幅広く、「日本での働き方」や「就職活動の進め方がわからない（就職の1年前から活動して内定を得るなど）」といった点を不安として挙げる傾向が強い。

| 心配事 | 大学 | 大学院 | 専門学校 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| 日本の働き方（年功序列・上下関係など）が不安 | 48.6% | 44.3% | 18.5% | 31.0% |
| 日本語力に不安がある | 38.5% | 45.3% | 21.9% | 32.3% |
| 残業が多いイメージ | 27.9% | 35.5% | 15.0% | 22.0% |
| 日本で働きたくない理由／心配している理由がない | 13.9% | 17.2% | 27.6% | 24.0% |
| ビザ更新・在留資格に不安 | 17.8% | 19.7% | 20.9% | 21.1% |
| 給与が低いイメージ | 21.6% | 19.2% | 14.3% | 18.2% |
| 就職活動の進め方がわからない（就職の1年前から活動して内定をもらうなど） | 19.2% | 17.2% | 8.7% | 13.7% |
| 将来のキャリアパスが見えにくい | 12.5% | 11.3% | 9.4% | 11.8% |
| 母国・他の国に行きたい | 14.9% | 12.3% | 6.1% | 8.6% |
| 住居の確保が難しい | 6.7% | 10.3% | 2.9% | 8.0% |
| 日本の文化及び生活に慣れにくい | 9.1% | 8.4% | 4.8% | 4.5% |
| 専門性を活かせる職が少ない | 7.2% | 8.4% | 3.7% | 6.1% |
| 家族が日本で働くことを望んでいない | 6.7% | 7.4% | 2.1% | 2.6% |


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 働きたい環境

## 「日本企業と外資系企業はほぼ同程度」

- 興味ある産業
- 働きたい企業の種類



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 興味ある産業

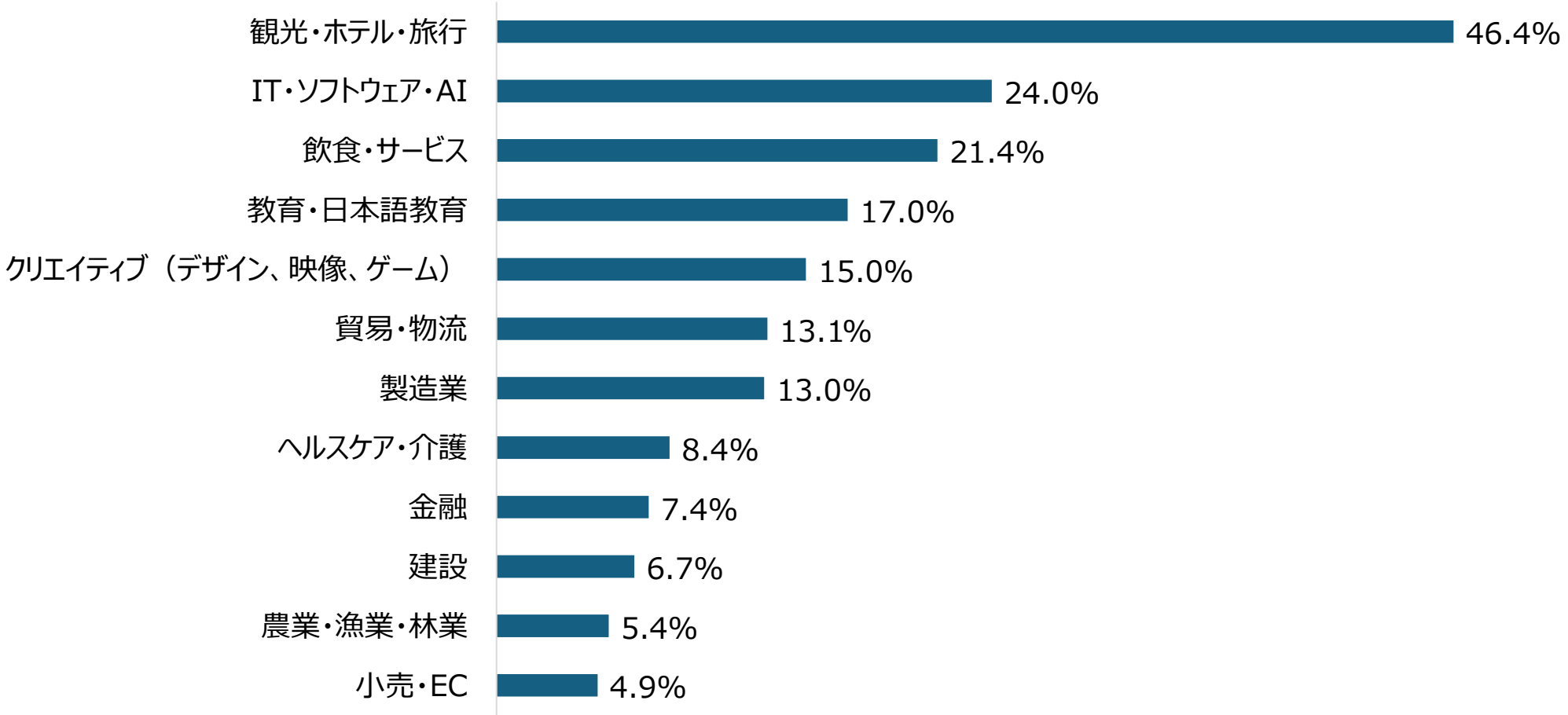


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 興味ある産業

## Q. お仕事として興味のある産業は何ですか（複数選択）

希望する就業分野を見ると、「観光・ホテル・旅行関連分野」を挙げた回答者が最も多く、全体の46.4%を占めている。なお、この結果については、回答者の中に当該分野と関連性の高い学校に在籍する学生が多く含まれていることが影響している可能性が高い。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 興味ある産業 （国籍別）

Q. お仕事として興味のある産業は何ですか（複数選択）

国籍別に希望する就業分野を見ると、ネパール出身者では「観光・ホテル・旅行関連分野」を希望する割合が非常に高い。ベトナム出身者では、「飲食・サービス分野」を挙げる割合が相対的に高い傾向が見られる。また、南アジア出身者では「IT・ソフトウェア分野」を希望する割合が他国と比べて高い。一方、中国出身者では希望分野が比較的分散しており、「製造業」や「貿易・物流分野」を挙げる割合が相対的に高い。

| 産業 | アジア内その他 | アジア外その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 中国 | 南アジア | 台湾・香港 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 観光・ホテル・旅行 | 20.8% | 27.1% | 22.0% | 80.9% | 42.5% | 38.7% | 28.9% | 33.3% | 34.3% |
| IT・ソフトウェア・AI | 19.5% | 34.4% | 24.4% | 8.2% | 22.5% | 25.8% | 35.5% | 47.2% | 34.3% |
| 飲食・サービス | 18.2% | 17.7% | 14.6% | 28.3% | 35.0% | 16.0% | 8.7% | 22.2% | 22.4% |
| 教育・日本語教育 | 14.3% | 27.1% | 24.4% | 7.4% | 11.9% | 11.0% | 27.7% | 26.4% | 31.3% |
| クリエイティブ（デザイン、映像、ゲーム） | 15.6% | 22.9% | 26.8% | 4.6% | 16.9% | 11.7% | 23.6% | 15.3% | 25.4% |
| 製造業 | 14.3% | 8.3% | 26.8% | 7.9% | 12.5% | 5.5% | 24.0% | 15.3% | 14.9% |
| 貿易・物流 | 18.2% | 11.5% | 14.6% | 7.4% | 21.9% | 7.4% | 22.3% | 1.4% | 13.4% |
| ヘルスケア・介護 | 10.4% | 4.2% | 12.2% | 6.0% | 13.1% | 3.1% | 12.4% | 8.3% | 9.0% |
| 建設 | 3.9% | 6.3% | 14.6% | 1.1% | 4.4% | 19.6% | 6.2% | 6.9% | 11.9% |
| 金融 | 7.8% | 8.3% | 4.9% | 3.0% | 16.9% | 6.7% | 9.9% | 4.2% | 4.5% |
| 農業・漁業・林業 | 11.7% | 13.5% | 4.9% | 3.3% | 5.0% | 4.3% | 2.1% | 9.7% | 9.0% |
| 小売・EC | 5.2% | 6.3% | 4.9% | 1.9% | 9.4% | 1.8% | 6.2% | 8.3% | 7.5% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 興味ある産業 （校種別）

Q. お仕事として興味のある産業は何ですか（複数選択）

学校種別に希望する就業分野を見ると、専門学校生では「観光分野」や「飲食・サービス分野」を希望する割合が特に高い。一方、大学院生では「IT・ソフトウェア分野」や「製造業」を希望する割合が高く、大学生では「クリエイティブ・デザイン分野」や「貿易・物流分野」を挙げる割合が高い。なお、これらの結果については、回答者が実際に専攻している分野や在籍する学校種別との関連性が強いと考えられる。また、本調査では多様な学校・専攻背景を持つ回答者を十分に確保することが難しかった点もあり、回答者構成が結果に影響している可能性が高い。

| 産業 | 大学 | 大学院 | 専門学校 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| 観光・ホテル・旅行 | 34.6% | 15.8% | 65.2% | 40.3% |
| IT・ソフトウェア・AI | 31.7% | 38.9% | 13.5% | 28.1% |
| 教育・日本語教育 | 27.4% | 29.6% | 8.0% | 17.9% |
| 飲食・サービス | 13.0% | 12.3% | 26.2% | 24.3% |
| クリエイティブ（デザイン、映像、ゲーム） | 23.6% | 14.3% | 9.1% | 20.4% |
| 製造業 | 14.9% | 27.6% | 6.6% | 13.7% |
| 貿易・物流 | 19.2% | 11.8% | 8.4% | 18.5% |
| ヘルスケア・介護 | 10.6% | 13.8% | 3.7% | 11.5% |
| 金融 | 10.1% | 6.9% | 4.5% | 11.2% |
| 農業・漁業・林業 | 2.4% | 10.8% | 3.6% | 7.0% |
| 建設 | 3.8% | 3.9% | 9.6% | 5.1% |
| 小売・EC | 8.2% | 5.4% | 3.0% | 5.8% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 興味ある産業　（専攻分野別）

Q. お仕事として興味のある産業は何ですか（複数選択）

専攻分野と希望する就業分野の間には、全体として強い関連性が見られる。多くの結果は直感的に理解しやすく、例えば、IT・情報系を専攻する学生では「IT・ソフトウェア・AI分野」を希望する割合が高く、観光・ホスピタリティ系の学生では「観光・ホテル・旅行分野」を、工学系の学生では「建設分野」を希望する傾向が確認される。一方、一部の専攻分野では就業分野の選好が比較的多様である。例えば、語学系の学生では「観光・ホテル・旅行分野」に加え、「クリエイティブ分野」や「飲食・サービス分野」を希望する割合も相対的に高い。

| 興味ある産業 ↓ ／ 学習項目→ | IT・情報系 | 語学・文学 | 経済・経営 | 工学 | 観光・ホスピタリティ | 国際関係・政治・社会学 | デザイン・アート | 医療・看護 | 調理・製菓 | 心理学 | 建築 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習分野別のN数 | 144 | 211 | 203 | 115 | 285 | 74 | 38 | 48 | 14 | 6 | 8 |
| - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| IT・ソフトウェア・AI | 94.4% | 19.4% | 17.2% | 26.1% | 5.3% | 18.9% | 13.2% | 6.3% | 7.1% | 16.7% | 0.0% |
| 製造業 | 8.3% | 13.3% | 17.2% | 33.9% | 5.3% | 14.9% | 5.3% | 8.3% | 14.3% | 16.7% | 12.5% |
| 観光・ホテル・旅行 | 11.8% | 44.1% | 52.7% | 9.6% | 94.0% | 40.5% | 7.9% | 16.7% | 57.1% | 33.3% | 12.5% |
| 飲食・サービス | 9.0% | 22.7% | 26.1% | 8.7% | 30.9% | 16.2% | 10.5% | 12.5% | 57.1% | 16.7% | 0.0% |
| 貿易・物流 | 2.8% | 19.4% | 30.0% | 6.1% | 4.6% | 18.9% | 2.6% | 6.3% | 14.3% | 33.3% | 0.0% |
| 金融 | 1.4% | 11.4% | 15.8% | 3.5% | 2.1% | 9.5% | 7.9% | 6.3% | 7.1% | 0.0% | 0.0% |
| クリエイティブ（デザイン、映像、ゲーム） | 21.5% | 18.0% | 10.3% | 14.8% | 3.5% | 27.0% | 65.8% | 4.2% | 21.4% | 33.3% | 12.5% |
| ヘルスケア・介護 | 0.7% | 12.8% | 1.5% | 2.6% | 4.2% | 9.5% | 0.0% | 72.9% | 7.1% | 16.7% | 0.0% |
| 教育・日本語教育 | 13.9% | 29.4% | 14.3% | 13.0% | 7.4% | 25.7% | 5.3% | 20.8% | 0.0% | 50.0% | 0.0% |
| 建設 | 2.8% | 2.8% | 1.0% | 41.7% | 1.4% | 0.0% | 18.4% | 2.1% | 14.3% | 0.0% | 75.0% |
| 小売・EC | 6.9% | 5.7% | 9.9% | 3.5% | 0.7% | 9.5% | 5.3% | 2.1% | 7.1% | 0.0% | 0.0% |
| 農業・漁業・林業 | 2.8% | 6.6% | 2.0% | 7.0% | 2.8% | 4.1% | 5.3% | 6.3% | 14.3% | 0.0% | 0.0% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 働きたい企業の種類

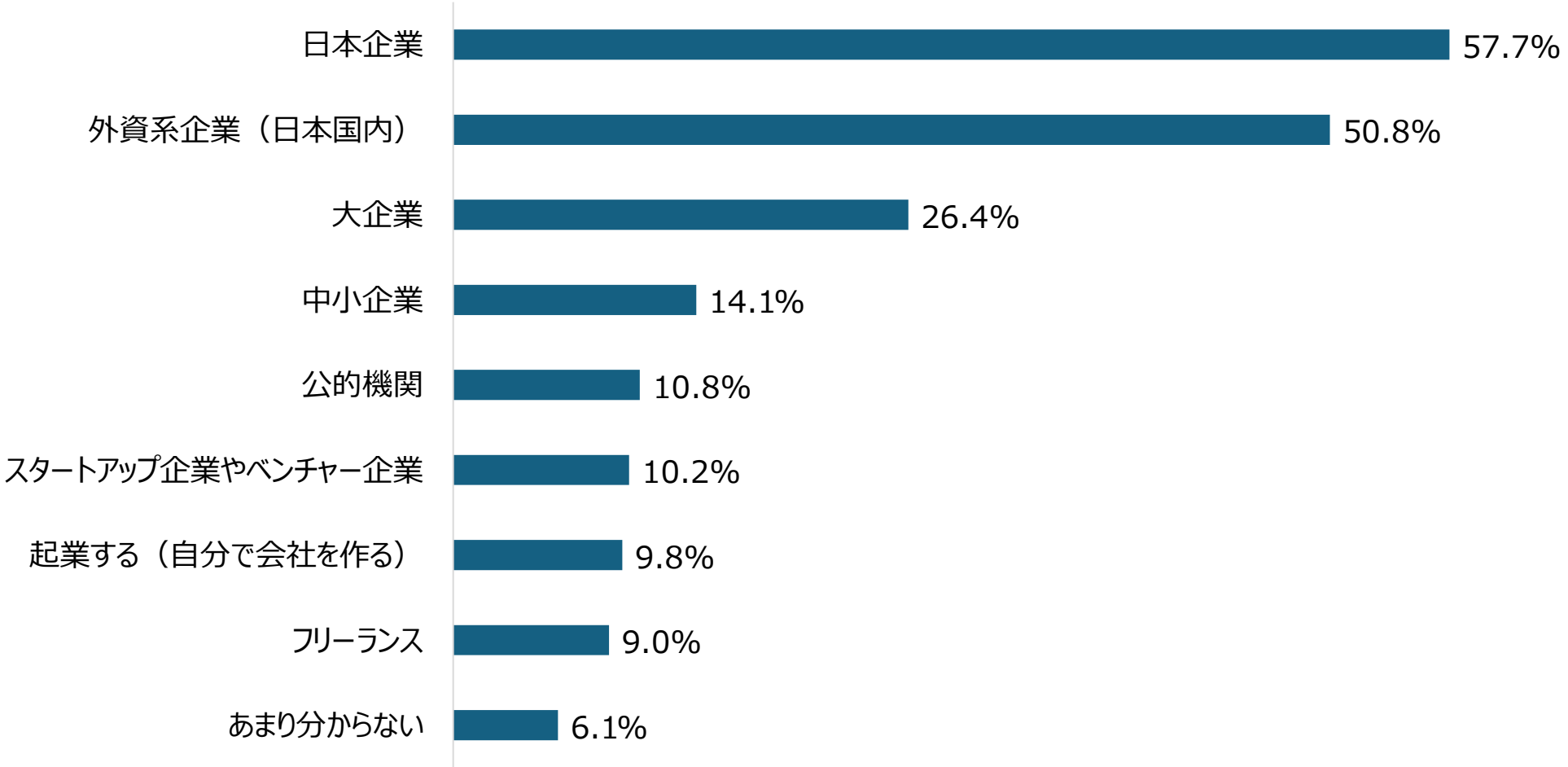


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 働きたい企業の種類

Q. 働きたい企業の種類・仕事のスタイルを教えてください

就職先として希望する企業の種類を見ると、「日本企業」が最も多く選択されており、次いで「外資系企業（日本拠点）」が多い。今後、「日本企業」を希望する層と「外資系企業」を希望する層について、どのような点で共通点や相違点が見られるのかを比較することは、有益であると考えられる。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 働きたい企業の種類 - 日本企業　&　外資系

Q. 働きたい企業の種類・仕事のスタイルを教えてください

日本企業と外資系企業（日本拠点）のいずれを就職先として志向するかについて、その傾向と関連する属性を把握するため、2つのロジスティック回帰分析を実施した。以下に示す結果は、他の要因を統制した上で、いずれかの就職先タイプと統計的に有意な関連が確認された要因を整理したものである。なお、本分析は因果関係を示すものではなく、日本企業志向層および外資系企業志向層と相対的に関連性の強い人物像（属性・意識）を示すものである。



**日本企業**

日本語能力が比較的高く、大学生ではない男性が中心。日本文化への関心が強く、金銭面の不安は相対的に小さい傾向。



**外資系**

台湾・香港、南アジア出身者が多く、女性かつ大学・大学院在学者が中心。日本の職場文化への好意度は相対的に低く、就職活動に関する不安を抱えやすい傾向。

| 観点 | 日本企業志向が強い層 | 外資系企業志向が強い層 |
|---|---|---|
| 国籍・地域： | • ミャンマー、台湾・香港、インドネシア以外 | • 南アジア、台湾・香港 |
| 性別： | • 男性 | • 女性 |
| 学校種別： | • 大学生以外 | • 大学生・大学院生 |
| 日本語力： | • N1レベル | • N3以上 |
| 日本で働きたい理由： | • 日本の文化・生活が好き<br>• 日本企業で経験を積みたい<br>• 日本で長く生活したい | • 専門スキルを高めたい<br>• 日本企業で経験を積みたい |
| 日本で働くこと関連の不安： | • ビザ更新・在留資格が不安<br>• 日本の働き方が不安**ではない** | • 残業が多いイメージ<br>• 日本の働き方が不安 |
| 就職活動上の不安： | • 経済的負担について**心配していない** | • 業界研究<br>• 情報収集の方法<br>• ガクチカ |
| 困りごと： | • 経済的不安は相対的に**小さい** | • アルバイトが見つからない<br>• 相談相手がいない<br>• 母国や母国にいる家族が心配 |

※具体的なオッズ比などの詳細については別途提供可能



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 働きたい企業の種類（国籍別）

Q. 働きたい企業の種類・仕事のスタイルを教えてください

国籍別に希望する就職先を見ると、ネパール、ベトナム、中国出身者では「日本企業」を希望する割合が相対的に高い傾向が見られる。また、中国出身者では「大企業」を志向する傾向が確認される。一方、台湾・香港出身者では、日本企業よりも「外資系企業（日本拠点）」を希望する割合が高く、外資系企業志向がより強い傾向が見られる。

| 働くスタイル | アジア内その他 | アジア外その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 中国 | 南アジア | 台湾・香港 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 外資系企業（日本国内） | 61.0% | 61.5% | 53.7% | 34.1% | 36.9% | 56.4% | 61.2% | 68.1% | 76.1% |
| 日本企業 | 48.1% | 42.7% | 41.5% | 66.5% | 70.6% | 40.5% | 62.8% | 56.9% | 44.8% |
| 大企業 | 32.5% | 33.3% | 22.0% | 15.5% | 20.0% | 25.2% | 40.5% | 30.6% | 32.8% |
| 中小企業 | 19.5% | 25.0% | 19.5% | 4.6% | 14.4% | 10.4% | 19.8% | 13.9% | 26.9% |
| 公的機関 | 22.1% | 27.1% | 14.6% | 1.6% | 6.3% | 2.5% | 18.2% | 16.7% | 20.9% |
| スタートアップ企業やベンチャー企業 | 10.4% | 19.8% | 24.4% | 6.0% | 7.5% | 6.7% | 7.9% | 19.4% | 23.9% |
| 起業する（自分で会社を作る） | 11.7% | 18.8% | 9.8% | 7.1% | 6.9% | 5.5% | 9.1% | 23.6% | 13.4% |
| フリーランス | 11.7% | 20.8% | 12.2% | 4.6% | 13.1% | 9.8% | 4.5% | 8.3% | 16.4% |
| あまり分からない | 11.7% | 10.4% | 14.6% | 4.1% | 4.4% | 8.6% | 5.0% | 2.8% | 4.5% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 働きたい企業の種類（校種別の結果）

Q. 働きたい企業の種類・仕事のスタイルを教えてください

学校種別に希望する就職先を見ると、大学生および大学院生では「外資系企業（日本拠点）」を希望する割合が相対的に高い。一方、日本語学校生や専門学校生では「日本企業」を希望する割合が高い傾向が見られる。特に専門学校生では、他の就職先区分の選択率が全体的に低く、日本企業への志向が相対的に強いことが示されている。

| 働くスタイル | 大学 | 大学院 | 専門学校 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| 外資系企業（日本国内） | 70.2% | 68.5% | 38.1% | 48.9% |
| 日本企業 | 44.7% | 52.7% | 62.4% | 61.0% |
| 大企業 | 38.0% | 38.9% | 18.4% | 24.6% |
| 中小企業 | 13.0% | 18.7% | 11.1% | 16.9% |
| 公的機関 | 16.3% | 31.0% | 2.0% | 9.9% |
| スタートアップ企業やベンチャー企業 | 12.5% | 18.7% | 6.1% | 10.5% |
| 起業する（自分で会社を作る） | 10.1% | 8.9% | 6.4% | 16.0% |
| フリーランス | 8.7% | 8.9% | 5.5% | 15.7% |
| あまり分からない | 6.3% | 4.4% | 5.5% | 8.0% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職活動に関する課題

## 「日本語での面接が最大の不安要因」

- 就職活動で不安に感じる点
- 留学生が求めている支援策
- 就職指導に関する満足度



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

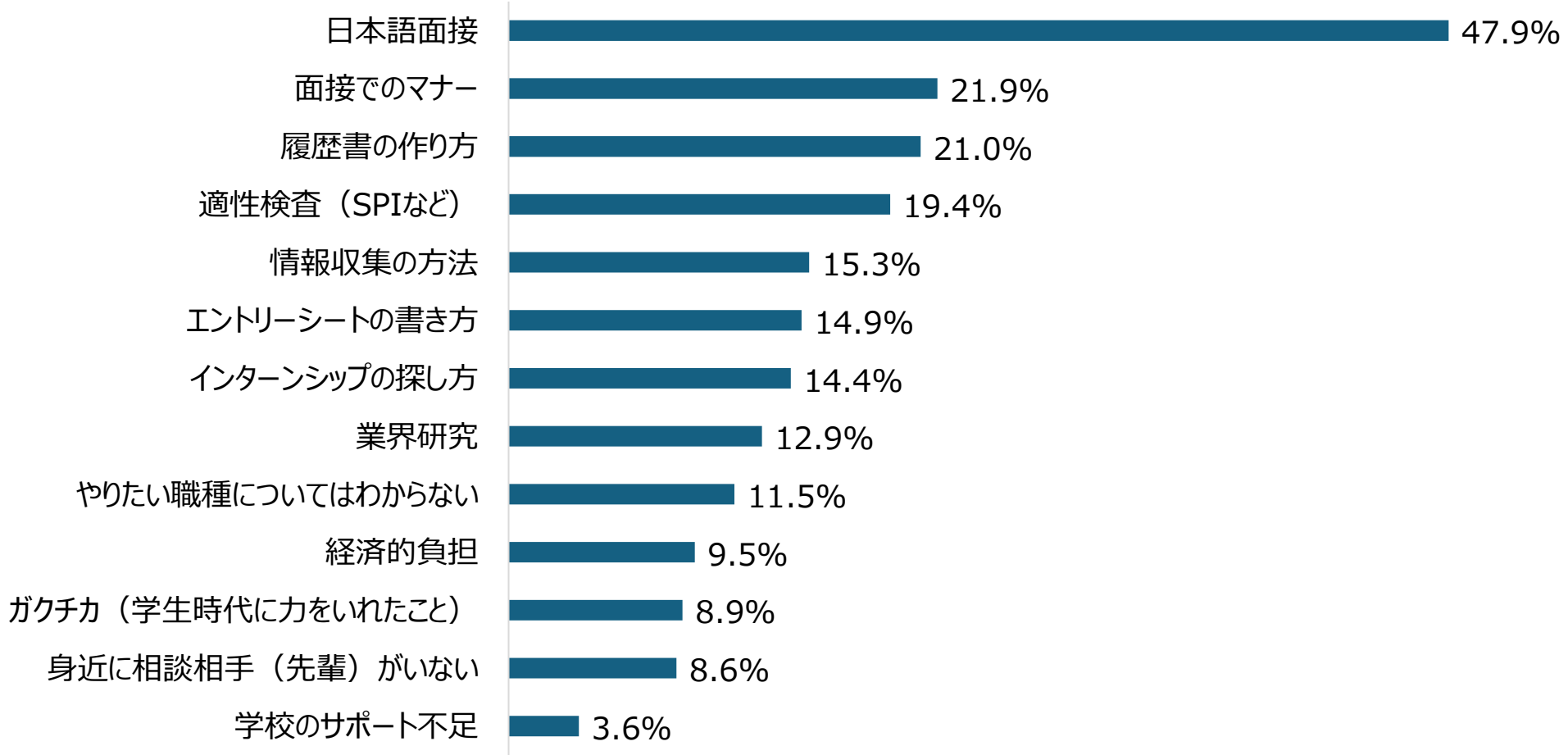
# 就職活動で不安に感じる点


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職活動で不安に感じる点

Q. 就職活動で不安に感じる点は何ですか。（複数選択）

就職活動に関する不安項目を見ると、「日本語での面接」が最も多く挙げられており、全体の47.9%が不安として回答している。これに続き、「面接でのマナー」や「履歴書の作り方」が上位を占めている。これらの結果から、学生に対する支援としては、面接対応や応募書類作成に関するサポートが特に有効であることが示唆される。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職活動で気になっていること（国籍別）

Q. 就職活動で不安に感じる点は何ですか。（複数選択）

就職活動に関する不安項目については、国籍によって傾向の違いが見られる。特に、ネパールおよびベトナム出身の回答者では、「すでに就職先が決まっている」と回答する割合が相対的に高い。一方、インドネシア出身者では「面接でのマナー」を不安として挙げる割合が高く、中国出身者では「日本語での面接」や「適性検査」に対する不安が特に強い傾向が見られる。また、台湾・香港出身者では、複数の不安項目について全体的に高い水準で回答しており、就職活動全般に対する不安が比較的強いことがうかがえる。

| 不安に思っていること | アジア内その他 | アジア外その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 中国 | 南アジア | 台湾・香港 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本語面接 | 50.6% | 61.5% | 51.2% | 40.1% | 43.8% | 33.1% | 59.1% | 51.4% | 67.2% |
| 面接でのマナー | 26.0% | 30.2% | 46.3% | 10.6% | 28.1% | 17.2% | 24.8% | 22.2% | 37.3% |
| 履歴書の作り方 | 20.8% | 31.3% | 22.0% | 21.3% | 16.9% | 19.0% | 18.6% | 19.4% | 29.9% |
| 適性検査（SPIなど） | 24.7% | 22.9% | 17.1% | 5.2% | 23.1% | 15.3% | 35.1% | 15.3% | 35.8% |
| エントリーシートの書き方 | 16.9% | 18.8% | 26.8% | 10.1% | 20.6% | 12.3% | 13.2% | 15.3% | 23.9% |
| 情報収集の方法 | 14.3% | 12.5% | 14.6% | 11.7% | 10.0% | 19.0% | 19.0% | 16.7% | 29.9% |
| インターンシップの探し方 | 15.6% | 15.6% | 17.1% | 6.5% | 15.0% | 15.3% | 20.2% | 20.8% | 20.9% |
| やりたい職種についてはわからない | 19.5% | 17.7% | 22.0% | 3.5% | 16.3% | 15.3% | 10.3% | 13.9% | 11.9% |
| もう就職先が決まっているため不安に感じている点はない | 10.4% | 10.4% | 12.2% | 20.2% | 20.0% | 12.9% | 9.9% | 16.7% | 16.4% |
| 業界研究 | 10.4% | 14.6% | 9.8% | 9.0% | 16.3% | 12.3% | 15.3% | 11.1% | 23.9% |
| 経済的負担 | 14.3% | 10.4% | 12.2% | 4.6% | 12.5% | 6.1% | 12.0% | 15.3% | 11.9% |
| ガクチカ（学生時代に力をいれたこと） | 18.2% | 16.7% | 4.9% | 3.3% | 5.0% | 4.3% | 13.6% | 9.7% | 22.4% |
| 身近に相談相手（先輩）がいない | 11.7% | 9.4% | 17.1% | 4.4% | 13.1% | 6.7% | 10.3% | 9.7% | 7.5% |
| 学校のサポート不足 | 5.2% | 7.3% | 0.0% | 3.0% | 3.8% | 4.9% | 2.1% | 4.2% | 1.5% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職活動で気になっていること（校種別）

## Q. 就職活動で不安に感じる点は何ですか。（複数選択）

学校種別ごとに就職活動に関する不安を見ると、この時期の専門学校生では「すでに就職先が決まっている」と回答する割合が高い。これは、専門学校生の中にベトナム出身者が多いという回答者構成とも整合的である。一方、大学生では「就職活動に関する情報の入手方法」や「インターンシップの探し方」に対する不安が相対的に高い。これに対し、大学院生では「日本語での面接」や「適性検査」、「面接でのマナー」といった選考プロセスそのものに関する不安が目立つ。

| 気になっていること | 大学 | 大学院 | 専門学校 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| 日本語面接 | 51% | 63% | 40% | 50% |
| 面接でのマナー | 23% | 32% | 15% | 27% |
| 適性検査（SPIなど） | 29% | 41% | 11% | 14% |
| 履歴書の作り方 | 20% | 24% | 19% | 22% |
| インターンシップの探し方 | 25% | 21% | 8% | 14% |
| 情報収集の方法 | 22% | 17% | 11% | 18% |
| エントリーシートの書き方 | 15% | 22% | 12% | 15% |
| 業界研究 | 18% | 19% | 9% | 12% |
| もう就職先が決まっているため不安に感じている点はない | 11% | 10% | 21% | 11% |
| やりたい職種についてはわからない | 17% | 14% | 7% | 15% |
| 経済的負担 | 11% | 17% | 5% | 12% |
| ガクチカ（学生時代に力をいれたこと） | 13% | 18% | 4% | 8% |
| 身近に相談相手（先輩）がいない | 11% | 10% | 6% | 10% |
| 学校のサポート不足 | 3% | 3% | 2% | 7% |


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職活動で不安に感じる点

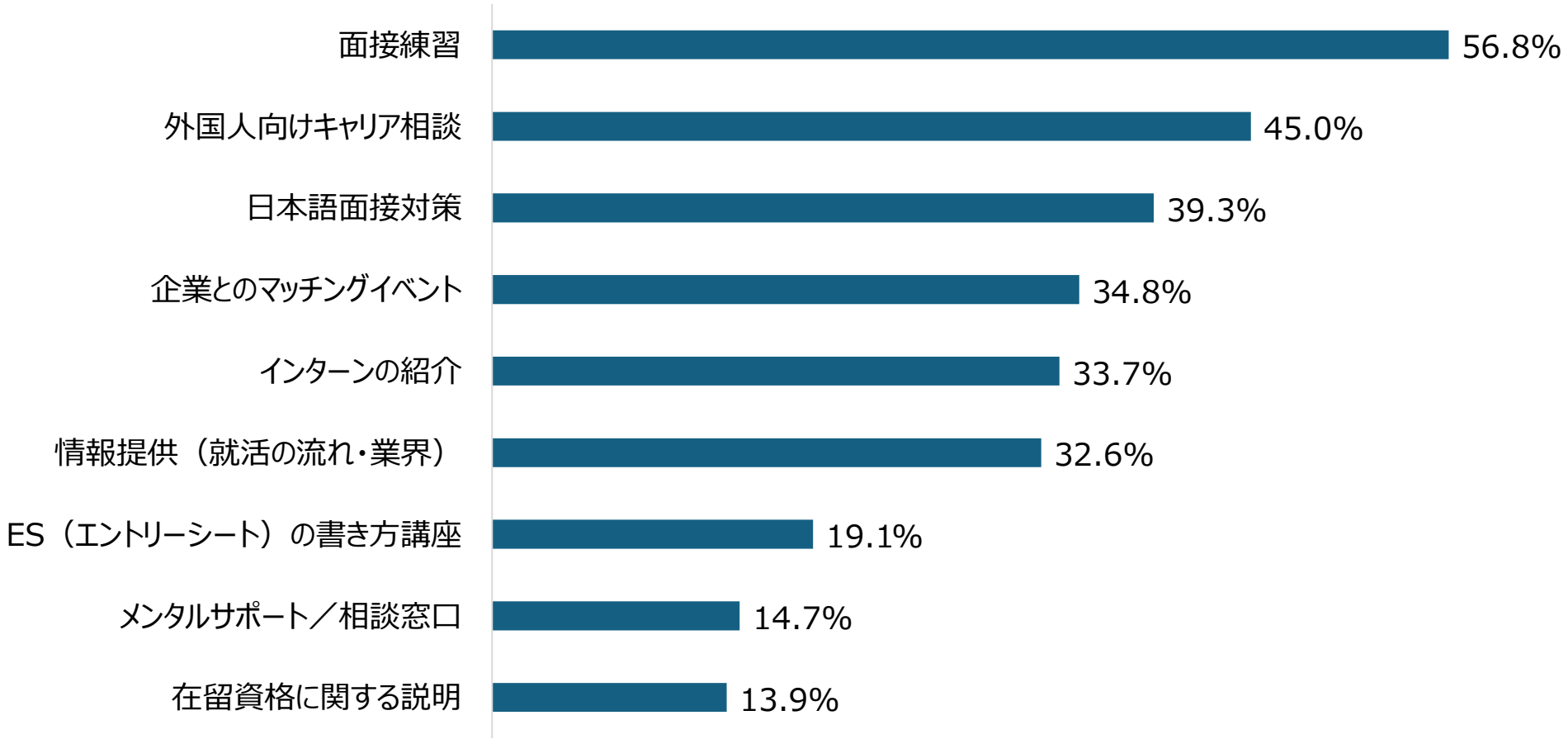


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 留学生が求めている支援策

Q. どのようなサポートがあれば就職しやすくなると思いますか？

就職活動を進めるうえで有効だと考えられている支援内容を見ると、「面接練習」が最も多く求められており、全体の56.8%を占めている。これに続き、「外国人向けのキャリア相談」が上位に挙げられている。一方で、「メンタル面のサポート」や「在留資格に関する説明」といった支援については、相対的にニーズは低い。






©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 留学生が求めている支援策（国籍別）

Q. どのようなサポートがあれば就職しやすくなると思いますか？

国籍別に求められる支援内容を見ると、インドネシア出身者では「企業とのマッチングイベント」や「外国人向けキャリア相談」を希望する割合が特に高い。一方、ベトナム出身者では「面接練習」を求める割合が相対的に高い。また、台湾・香港出身者では、ほぼすべての支援項目において選択率が全体的に高く、支援ニーズが比較的強いことが示唆される。

| 求めているサポート | アジア内その他 | アジア外その他 | インドネシア | ネパール | ベトナム | ミャンマー | 中国 | 南アジア | 台湾・香港 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 面接練習 | 46.8% | 61.5% | 53.7% | 56.1% | 64.4% | 44.8% | 60.7% | 54.2% | 67.2% |
| 外国人向けキャリア相談 | 57.1% | 50.0% | 56.1% | 35.1% | 42.5% | 41.1% | 50.0% | 54.2% | 58.2% |
| 日本語面接対策 | 40.3% | 51.0% | 48.8% | 32.7% | 38.1% | 25.2% | 47.5% | 34.7% | 62.7% |
| 企業とのマッチングイベント | 40.3% | 47.9% | 65.9% | 16.3% | 40.6% | 30.7% | 45.9% | 38.9% | 43.3% |
| インターンの紹介 | 42.9% | 36.5% | 48.8% | 21.0% | 27.5% | 47.2% | 31.4% | 50.0% | 52.2% |
| 情報提供（就活の流れ・業界） | 40.3% | 33.3% | 34.1% | 22.9% | 37.5% | 25.2% | 43.4% | 26.4% | 47.8% |
| ES（エントリーシート）の書き方講座 | 26.0% | 26.0% | 29.3% | 13.9% | 18.1% | 14.7% | 19.8% | 13.9% | 37.3% |
| 在留資格に関する説明 | 16.9% | 22.9% | 22.0% | 6.5% | 16.9% | 9.8% | 12.0% | 19.4% | 35.8% |
| メンタルサポート／相談窓口 | 20.8% | 16.7% | 14.6% | 11.4% | 21.3% | 10.4% | 10.7% | 22.2% | 22.4% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 留学生が求めている支援策（校種別）

Q. どのようなサポートがあれば就職しやすくなると思いますか？

求められる支援内容を学校種別に見ると、日本語学校生では「面接練習」や「日本語面接対策」を希望する割合が特に高い。一方、大学院生では「日本語面接対策」を求める割合は相対的に低いものの、「外国人向けキャリア相談」や「インターンシップの紹介」を希望する割合が高い傾向が見られる。

| 求めているサポート | 大学 | 大学院 | 専門学校 | 日本語学校 |
|---|---|---|---|---|
| 面接練習 | 52.4% | 56.7% | 56.1% | 61.0% |
| 外国人向けキャリア相談 | 55.8% | 53.7% | 36.2% | 47.9% |
| 日本語面接対策 | 38.0% | 45.8% | 34.0% | 45.0% |
| 企業とのマッチングイベント | 46.2% | 50.2% | 23.9% | 36.7% |
| インターンの紹介 | 42.8% | 43.8% | 27.3% | 32.6% |
| 情報提供（就活の流れ・業界） | 39.4% | 40.9% | 24.6% | 36.7% |
| ES（エントリーシート）の書き方講座 | 23.1% | 26.6% | 14.4% | 19.5% |
| メンタルサポート／相談窓口 | 15.4% | 15.3% | 12.7% | 17.3% |
| 在留資格に関する説明 | 12.5% | 21.7% | 10.3% | 16.0% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職活動で不安に感じる点　×　留学生が求めている支援策

Q. 日本で働きたくない／心配している理由を教えてください（複数選択）vs Q. どのようなサポートがあれば就職しやすくなると思いますか？

本ページでは、就職活動に関して学生が抱えている不安と、求めている支援内容との関係性を整理している。なお、本結果は「特定の不安があるから必ずこの支援が解決策になる」という因果関係を示すものではない。実際には、同一の支援を複数の異なる背景や不安を持つ学生が選択している。一方で、本分析からは、特定の不安と特定の支援との間に一定の関連性が示唆される。例えば、「相談相手がいない」と回答した学生は、他の学生と比較して外国人向けキャリア相談を希望する割合が相対的に高い傾向が見られる。

## Ⓐの不安を抱えている人は、どのⒷ支援をどれくらい求めているか

| | Ⓑ求めている支援 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⓐ 就職活動に関して不安を持っていること | ES（エントリーシート）の書き方講座 | 面接練習 | 企業とのマッチングイベント | インターンの紹介 | 情報提供（就活の流れ・業界） | 日本語面接対策 | 外国人向けキャリア相談 | 在留資格に関する説明 | メンタルサポート／相談窓口 |
| エントリーシートの書き方 | 48.2% | 68.6% | 49.7% | 45.5% | 45.0% | 52.9% | 60.2% | 23.6% | 22.0% |
| 履歴書の作り方 | 35.6% | 65.2% | 41.5% | 42.6% | 38.5% | 53.3% | 52.2% | 20.0% | 17.8% |
| 日本語面接 | 22.1% | 66.0% | 40.7% | 36.3% | 36.4% | 50.4% | 49.9% | 16.9% | 14.6% |
| 適性検査（SPIなど） | 27.7% | 58.6% | 50.2% | 43.4% | 48.6% | 53.0% | 61.0% | 21.3% | 23.7% |
| ガクチカ（学生時代に力をいれたこと） | 39.5% | 55.3% | 53.5% | 57.0% | 56.1% | 53.5% | 65.8% | 28.9% | 27.2% |
| 業界研究 | 28.9% | 54.2% | 52.4% | 45.8% | 54.2% | 44.6% | 64.5% | 23.5% | 20.5% |
| 情報収集の方法 | 31.0% | 63.5% | 53.3% | 47.7% | 54.8% | 52.8% | 63.5% | 23.9% | 24.4% |
| 面接でのマナー | 27.0% | 68.3% | 48.8% | 44.8% | 45.9% | 60.9% | 58.4% | 22.8% | 19.2% |
| インターンシップの探し方 | 29.7% | 58.4% | 57.3% | 64.3% | 51.9% | 46.5% | 67.6% | 20.0% | 23.2% |
| 学校のサポート不足 | 28.9% | 53.3% | 42.2% | 51.1% | 48.9% | 46.7% | 68.9% | 15.6% | 35.6% |
| 身近に相談相手（先輩）がいない | 29.1% | 61.8% | 50.0% | 47.3% | 54.5% | 50.9% | 69.1% | 24.5% | 25.5% |
| 経済的負担 | 24.8% | 60.3% | 50.4% | 52.9% | 50.4% | 46.3% | 64.5% | 31.4% | 27.3% |
| やりたい職種についてはわからない | 20.3% | 53.4% | 45.3% | 42.6% | 43.2% | 41.9% | 58.1% | 22.3% | 29.7% |

各不安項目について、上位2つの支援を強調表示



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職指導に関する満足度

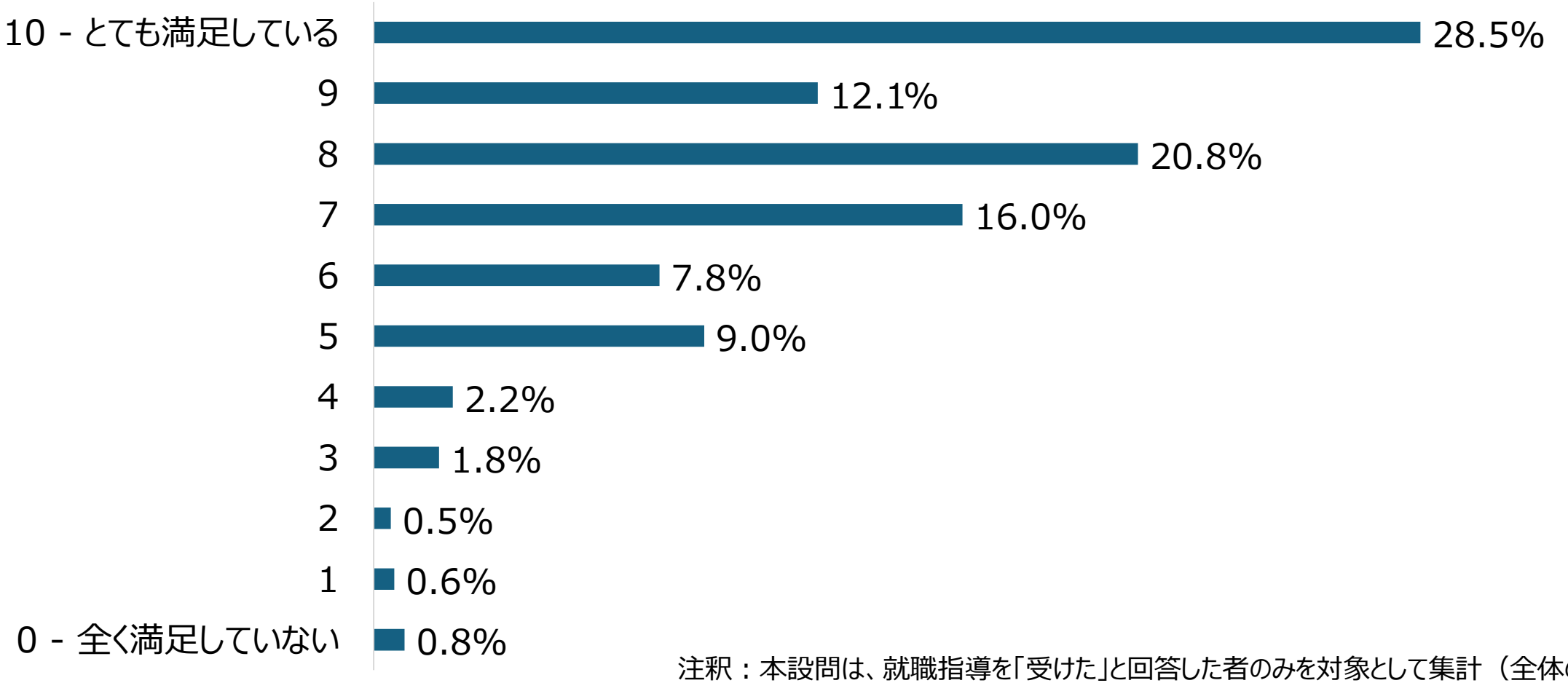


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職指導に関する満足度

Q. あなたが通っている学校での就職指導にどの程度満足していますか？（0−10）

就職指導を受けたと回答した人を対象に、受けた支援の質に対する満足度について、0～10の尺度で評価を求めた。その結果、「10」から「5」まで幅広い回答が見られたものの、「10」と回答した人が最も多い。今後は、満足度が高い層と相対的に低い層の違いが何によるものかについて、さらなる分析を行うことが有用であると考えられる。




注釈：本設問は、就職指導を「受けた」と回答した者のみを対象として集計（全体の83%）。



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職指導に関する満足度（校種別の結果）

Q. あなたが通っている学校での就職指導にどの程度満足していますか？（0–10）

校種別に就職指導の満足度を見ると、専門学校および日本語学校では、特に高い評価を選択する人の割合が高いことが確認される。一方、大学ではその割合が低下しており、大学生が抱く就職指導に対する期待とのギャップについて、見直しが必要である可能性が示唆される。

| 満足度 | 日本語学校 | 専門学校 | 大学 | 大学院 |
|---|---|---|---|---|
| 10・9の回答率 | 41.8% | 45.7% | 25.0% | 36.4% |
| - | - | - | - | - |
| 10 - とても満足している | 30.5% | 32.6% | 18.4% | 21.2% |
| 9 | 11.3% | 13.1% | 6.6% | 15.2% |
| 8 | 20.5% | 18.1% | 23.7% | 27.8% |
| 7 | 15.9% | 14.9% | 21.1% | 15.2% |
| 6 | 6.3% | 7.6% | 13.2% | 5.3% |
| 5 | 10.5% | 7.6% | 11.2% | 9.3% |
| 4 | 1.3% | 2.9% | 1.3% | 2.0% |
| 3 | 1.3% | 1.5% | 3.3% | 2.0% |
| 2 | 0.8% | 0.2% | 0.0% | 1.3% |
| 1 | 0.0% | 0.8% | 0.7% | 0.7% |
| 0 - 全く満足していない | 1.7% | 0.8% | 0.7% | 0.0% |



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職指導に関する満足度（就職活動に関する心配事別）

Q. あなたが通っている学校での就職指導にどの程度満足していますか？（0−10）vs Q. 日本で働きたくない／心配している理由を教えてください（複数選択）

以下は、就職活動に関する各不安項目について、その不安を挙げた人と挙げなかった人のうち、就職指導の満足度を「9～10」と評価した人の割合を示したものである。相対差の値が低い項目ほど、当該の不安を抱えている人は就職指導に対する満足度が低い傾向にあり、就職指導の観点から見て、より優先的に対応すべき課題である可能性が示唆される。




| Ⓐ | Ⓐを選んだ人が満足している割合 Ⓑ | Ⓐを選んでいない人が満足している割合 Ⓒ | 相対差Ⓑ/Ⓒ |
|---|---|---|---|
| もう就職先が決まっているため不安に感じている点はない | 56.9% | 37.2% | 152.8% |
| 履歴書の作り方 | 42.4% | 40.1% | 105.6% |
| エントリーシートの書き方 | 41.5% | 40.4% | 102.6% |
| 業界研究 | 34.9% | 41.4% | 84.3% |
| 情報収集の方法 | 34.3% | 41.5% | 82.6% |
| 日本語面接 | 36.3% | 44.3% | 81.9% |
| 適性検査（SPIなど） | 33.3% | 42.1% | 79.2% |
| インターンシップの探し方 | 31.9% | 41.8% | 76.1% |
| ガクチカ（学生時代に力をいれたこと） | 29.3% | 41.5% | 70.5% |
| 面接でのマナー | 29.8% | 43.3% | 68.8% |
| 身近に相談相手（先輩）がいない | 25.3% | 41.8% | 60.6% |
| やりたい職種についてはわからない | 23.5% | 42.3% | 55.5% |
| 経済的負担 | 21.6% | 42.3% | 51.1% |
| 学校のサポート不足 | 15.2% | 41.4% | 36.6% |


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

# 就職指導に関する満足度 × 求めているサポート

Q. あなたが通っている学校での就職指導にどの程度満足していますか？（0−10）vs Q. どのようなサポートがあれば就職しやすくなると思いますか？

以下は、求められる支援内容別に、就職指導の満足度を「9～10」と評価した割合の差を示したものである。困りごとと満足度の関係と比較すると、支援内容と満足度との関連は相対的に弱いものの、「外国人向けキャリア相談」や「メンタルサポート・相談窓口」を求めている人では、就職指導に対する満足度が低い傾向が見られる。これらの結果から、当該分野における支援を強化することで、満足度向上につながる可能性が示唆される。なお、支援を求める層は、もともと支援に対する期待水準が高い可能性もあり、結果の解釈には留意が必要である。

| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| Ⓐ | Ⓐを選んだ人が満足している割合 Ⓑ | Ⓐを選んでいない人が満足している割合 Ⓒ | 相対差Ⓑ/Ⓒ |
|---|---|---|---|
| 面接練習 | 43.2% | 37.2% | 116.1% |
| ES（エントリーシート）の書き方講座 | 44.8% | 39.7% | 112.9% |
| 日本語面接対策 | 41.0% | 40.3% | 101.7% |
| 情報提供（就活の流れ・業界） | 38.4% | 41.5% | 92.4% |
| 在留資格に関する説明 | 35.3% | 41.3% | 85.5% |
| インターンの紹介 | 35.8% | 42.8% | 83.5% |
| 企業とのマッチングイベント | 35.4% | 43.1% | 82.2% |
| 外国人向けキャリア相談 | 35.9% | 44.0% | 81.6% |
| メンタルサポート／相談窓口 | 32.4% | 41.8% | 77.4% |


©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU

公益財団法人 大阪観光局

•本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。
•本資料は弊局が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、その確実性を保証するものではありません。
•本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。
•本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、
•必ず出所 (公財)大阪観光局と明記して下さい。
•本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、下記お問い合わせ先までご連絡下さい。

■公益財団法人　大阪観光局　留学生支援・教育旅行推進室　　e-mail：stydyinosaka@octb.jp　TEL：06-6282-5908



©OSAKA CONVENTION & TOURISM BUREAU